

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号機及び4号機の地震等に係る新基準適合性審査に関する事業者ヒアリング(100)、(133)」

2. 日時：令和3年2月3日（水）10時00分～12時30分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、  
海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、菅谷技術調査官、  
磯田係員、松末技術参与

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 執行役員  
中川原子力土建部長 他11名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・ 浜岡原子力発電所 敷地の地質・地質構造（コメント回答）
- ・ 浜岡原子力発電所 敷地の地質・地質構造（コメント回答）補足説明資料
- ・ 浜岡原子力発電所 敷地の地質・地質構造（コメント回答）データ集
- ・ 浜岡原子力発電所 新規制基準適合性審査 指摘事項リスト
- ・ 前回ヒアリング（2020年11月18日実施）からの修正箇所

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	はい。規制庁の菅井ですおはようございます。よろしくお願いします。
0:00:06	それでは浜岡原子力発電所の敷地の地質地質構造とコメント回答のヒアリングの方始めたいと思いますよろしくお願いします。
0:00:19	中部電力アマンでございませう。よろしくお願ひいたします。本日、前回 11 月 18 日に実施させていただきます、敷地の地質地質構造のヒアリング、
0:00:31	次で 2 回目ということでお願ひしてございませう資料のほうはコメント回答資料と補足資料あとデータ集の A3 部をお届けしてございませう。説明はちょっと丁寧に説明させていただきます 45 分ほど。
0:00:48	説明させていただきます質疑をお願ひしたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。
0:00:55	。
0:00:57	中部電力の森本です。説明させていただきます。
0:01:01	本日の資料ですが、時音声 192 から 194-3 分冊になります。それぞれ R01 として前回いただいたコメント踏まえ見直しを行っております。
0:01:12	前回ヒアリング大きく 2 点御指摘いただいたと認識をしております。
0:01:17	まずそもそも H 断層系のどういった断層をどうやって評価するのか、そういった観点の説明が抜けているという御指摘と、
0:01:25	調査データを網羅的に確認できるような一覧表マトリックス、その中でどうデータを使って評価をやっているのかという説明が必要だと、こういった御趣旨の御指摘をいただいたと思っております。大きいところこの 2 点だったかと思ひますけれども、いずれも一番外側の評価方針、それから評価の
0:01:44	流れといいますかロジックをしっかりと示すことができなかつたので、いただいたコメントだと認識をしております装填改善を図っております。
0:01:59	その解説中ですね資料の構成についても再整理を行っております。ロジックそのものと、それに関わる調査のデータ、それから検討したいというのは前回ヒアリングから変更はございませう。ロジックが明確になるように整理を再整理してきたというものでございませう。
0:02:18	それではその他ほかその他いただいたコメントへの対応も含め、前回からの変更点を中心に御説明させていただきます。
0:02:27	イトウ一覧性 192 の番号がついているものが本編資料になりますので、こちらの 1 ページから御説明させていただきます。
0:02:35	まずコメント一覧表ですけれども、
0:02:38	前回コメント No.85 の自治体が適切でないという御指摘をいただいております。

0:02:45	今回文末をですね、活動性評価はどのような断層でも代表できることを示すこととしております。
0:02:52	前回は100度断層でも最新活動時期の評価が同じになることを示すこととしておりましたが、もう少し弊社の思いが入り過ぎておりましたので、修正しております。
0:03:03	その下の86についても今回地裁の見直しを適正化を行っております、
0:03:10	今回は裁量物質が周辺母岩に比べ軟質やることの考察としております。
0:03:16	前回コードが周辺母岩に比べ低いことの考察としておりましたが、本質的には高度が高い低いというよりかは、かたいかやわらかいかということかと思いますので、想定修正を図っております。
0:03:31	次3ページに移っていただきまして、こちらに、この資料の各省における検討内容を示しております。
0:03:40	前回の資料ですが、評価の全体構成というタイトルで評価の簡易的な流れというものもあわせて示しておりましたが、ここでは各省でどういった検討しているのかという概要を示すだけにとどめております。
0:03:55	その評価の流れとしては次の4ページ、敷地の断層の評価の流れとして詳しく示しております。
0:04:03	ここの部分が資料の中身のほうで御説明させていただきます。
0:04:08	また3ページに戻っていただきまして、各社の検討内容を記載しているものがございますが、一番下の箱4ポツ、4章の部分。
0:04:19	1断層系の活動性評価としておりますが、その上の部分前段になりますけれども、三つの箱がございます。
0:04:27	1ポツが文献調査のポツ、
0:04:30	地形調査散発的
0:04:36	敷地の断層のモデル
0:04:39	的な調査になりますが、
0:04:41	まず、
0:04:43	これら3ポツまでの検討で一番想定を評価対象とするということを説明しております。前回比では3ポツ、3章の1部のみを記載して残りの部分省略としておりましたが、
0:04:55	4章のH断層系の活動性評価の中において、本日の資料ではchanceほどやって評価していくんだという評価方針をしっかりと示しておりますので、その評価方針に示す上で、スポーツから3ポツ参照がでも重要な記載が含まれておりますので、
0:05:12	省略はやめて再掲という形で資料に盛り込んでおります。

0:05:18	資料の中にも入ってきますけれども再掲という部分が 6 ページから 38 ページになります。
0:05:26	文献調査と地形調査、それから敷地の断層の網羅的な調査をやっているところでした、
0:05:33	切り切れから、一段組織を活動性評価の対象とするというところを説明している部分になります。最近ありますので、説明を説明は割愛させていただきます。
0:05:46	で 39 ページから予兆 1 断層系の活動性評価に入っていきます。
0:05:54	このページタイトルの下に括弧書きしておりますけれどもこの賞をコメントの 85 番、家調整評価がどの断層でも代表できるんだというところを説明する部分ですけれども、その回答として、
0:06:08	前回会合資料に新たな調査、それから検討結果を加えて再構成を行っております。
0:06:17	次が 40 ページ
0:06:20	頭の部分になりますが、H断層系の評価方針を今回整理して追加しております。
0:06:27	敷地周辺の活断層評価ということはこの資料の一章から参照して検討した内容を踏まえまして、一段組織をどうやって評価していくのかというのをここに書いております。
0:06:39	まず左の箱になりますけれども、敷地周辺における活断層評価結果を書いております。
0:06:45	これ敷地周辺の審査で御説明する内容ですけれども、
0:06:50	ポイントは 2 ポツのところからになります。
0:06:53	敷地から概ね半径 10km以上においては震源として考慮する活断層として、17 を初め、四つの断層評価してます。
0:07:02	この範囲におけるその他の断層というのは震源として考慮する活断層には該当しないというものです。
0:07:09	3 ポツは、17 の位置付けを変えておりますが、後期更新世以降の活動を示唆する構造としては確認されておりませんが、敷地近くの褶曲構造から想定される断層等でより慎重に評価したというものでございます。
0:07:25	2 次右側の箱、ここからは室内での審査引き継ぎの審査での御説明内容になります。敷地内及びごく近傍で将来活動する可能性のある断層等があるかないかを確認するのが
0:07:41	この審査のフェーズの
0:07:44	確認なのかと思いますので敷地を中心に詳細な検討を行ったというものでございます。

0:07:51	その結果がここ記載の省略をやめて再掲した一章から3章に掲載されているというものです。
0:07:59	それらをまとめたものが次の41ページの上の箱の白い箱の部分になります。
0:08:08	まず一章乙A物件調査になりますが、敷地及びごく近傍では活構造滑り地形の存在を示唆する文献というのは確認されておられません。
0:08:18	その下に小変動地形学的調査ですが、地形にも活断層地すべりは出ていない。
0:08:25	そうした参照内容になりますが、まず敷地の地質層序としては引き継ぎは上部更新統は分布しないけれども、敷地の北方には、分布すると。
0:08:35	ということ。
0:08:37	次地下構造調査。
0:08:39	17断層を初め、5日深部から中央付近まで伸びているような断層が確認されませんというものです。
0:08:47	一番想定と対応するように複数の平行する断層群というのは、話だろうからも想定されますけれども、これらの断層の地下深部から中央付近まで及びオオノものではございません。
0:09:00	それから露頭調査をやったところ、AEW系NS系断層の逆断層、それからflexuralslipfault、この5種類の断層グループが確認できていて、そのうちH断層系を
0:09:12	活動性評価の対象としたというのが3章までの内容です。
0:09:18	この内容と、先ほどの敷地周辺の評価結果を踏まえまして、
0:09:23	まず敷地及び極近傍におけるし、震源として考慮する活断層をどうやって考えるのかというのを下の黄色い箱へ決めております。
0:09:34	内容ですが、敷地及びごく近傍においては、周辺の活断層評価結果によると、震源として考慮する活断層として評価しているものは10のみでさらに、
0:09:47	私立中心により詳細が調査を行っても活断層を示唆する文献だとか構造というのは認められないというものです。
0:09:56	この17というのも米印で書いておりますが、敷地近くの褶曲から想定されるので、慎重に地震動評価を行っているという位置付けでございます。
0:10:07	イソダ地ですけれども太字の部分、敷地及びごく近傍においては、震源として考慮する活断層というのは認められませんので、敷地内で活動性評価の対象としているH断層系についても震源として考慮する活断層には該当しないと考えております。
0:10:25	このことを踏まえまして、1断層系の評価方針を一番下の緑箱に書いております。

0:10:32	H断層系は震源として考慮する活断層には該当しないと、先ほど説明しておりますが、
0:10:38	ですのでH断層系のうち重要構造物施設直下の重要施設直下の断層を評価対象として、
0:10:48	この断層が将来活動する可能性のある断層等に該当しないことを確認するというものです。
0:10:55	その確認にあたってですけれども、引き継ぎは上部更新統が分布しておりませんので、敷地外の上載地層を有する断層についても検討対象としてコメントいただいておりますように、
0:11:07	重要施設直下の断層、それから、上載地層を有する断層の活動性評価はどう断層でも第1表できることと、
0:11:15	活動性評価どう断層でも代表できるんだというところをしっかりと示した上で、上載層を有する断層の最新活動時期をもって重要施設直下の断層の活動性を評価していきます。
0:11:28	これが一番想定の中のどっか断層度合いと評価するのかという方針でございます。
0:11:35	この方針のもと、具体的にどうやって検討を行っているのかというのを42ページから検討の流れとして示しております。
0:11:44	真ん中の箱からになります。まず、4.1から4.3章において分布形態性状深部構造の調査結果をお示します。その結果得られた断層等重要構造物A上部更新統の位置関係を音声で書いておりますけれども、
0:12:03	一番左の率m4断層から、右からヒサマツ低地な断層までが、重要構造物を直下の断層珍しい直下の断層となります。
0:12:17	一番右五木断層の上部に上部更新統と考えられる地層が分布するという位置関係になります。これを先ほど御説明した緑箱のちゃんと評価補正に照らしたのが一番下の赤箱の部分になります。
0:12:33	重要施設直下断層であるJM4から1名断層、これが評価対象になりまして、
0:12:40	将来活動する可能性のある断層等に該当しないことを確認します。その確認にあたって、
0:12:46	Hm4から1名出そうというのが上部更新統に追われないので、上部更新統と考えられる地層に追われる。
0:12:55	遠州断層についても検討対象として、
0:12:59	内M4から17、それから19というのは、活動性評価はどの断層でも代表できるんだというところを示した上で、19断層の最新活動時期を持ってHmからHなの。
0:13:12	活動性を評価するというものです。

0:13:16	この道路の段差でも代表できることを示すというのが今回のコメント回答のメインになるわけですが、
0:13:24	その概要というのを次の 43 ページに記載しております。これは資料で言いますと 4.4 章の部分でやっている内容です。
0:13:35	具体的な内容はまた後程 4.4 章で御説明しますが、そこでどの断層でも代表できるんだというところを示した上で、次の 44 ページ。
0:13:46	4.6 章の内容になりますが、地球断層の最新活動時期の検討をやっていきます。
0:13:53	その時期が後期更新世よりも前だということがいえるので。地面から 1-7 断層の最新活動も後期更新世よりも前だ。すなわち、後期更新世以降は活動してなくて、将来活動する断層等に当たらないというのが、その評価の流れをとめのロジックになります。
0:14:11	このスライド右の右上にですね要点を検討内容も書いておりますが、形成要因についても検討を行っておりますの解釈論なので、名ロジックにはなりません、側面から検討を行っているというものでございます。
0:14:28	以上が 4 章の chance 系の活動性評価で具体的にやっている内容の検討の流れでございまして、この流れに沿ってこれから御説明させていただくという導入部分でございましてこのスライドを今回追加しております。
0:14:44	それでは、中身のほうに入っていきます、45 ページ、まず分布形態の調査結果を示しております。
0:14:54	46 ページに概要をまとめております。
0:14:58	上の箱書き a になりますが、(1)ボーリング、それから露頭調査をやって H 断層系の分布形態を推定した。
0:15:06	(2)についても文法音波探査等で調べたというものでございますが、
0:15:12	47 ページから、まず、ボーリング、露頭の調査結果を示しております。
0:15:18	この部分は記載の適正化のみで大きな変更というのはございません。71 ページまで飛んでいただきまして、
0:15:30	まず 1 ページに重要施設との位置関係というのが平面図で示しております。
0:15:37	エイズ目下の南側 Hm4 右端に止めますけれども、HM-断層から、図面上、北側の H7 断層までは重要構造物直下の断層というものです。
0:15:53	次 73 ページ。
0:15:56	会期についてになります。海上音波探査等の結果も使って平面分布を検討しておりますが、
0:16:04	海上音波探査の反射断面を 80 ページからお示ししています。

0:16:11	陸側では、表層部反射面の乱れがありますが、沖へ行くとなくなるという結果でございます。
0:16:18	この音波探査結果ですけれどもここではあくまで表層に限った話をしておりますが、当然開閉の資料ですと、深部構造の説明をしていると誤解を招くような記載解釈図面を載せておりましたので、記載の適正化を図っております。
0:16:34	あくまで陸域でボーリングで確認しているような表層部分の断層のあるなしをここでは見ているという位置付けです。
0:16:42	会期の深部についてですけれども、反射記録としてはここで全部お示しておりますが、今までの資料では解釈としては抜け落ちがありましたので、今回調査結果を網羅的に示すという観点で、後段の 4.3 章。
0:16:58	深部構造の説明スライドに
0:17:01	会期深部について解釈だとか説明というのを追加しております。
0:17:07	ですねこの海域のH断層系の分布形態の検討にあたっては、発生記録を使った評価内容というのは変わっておりませんが、誤解を招かないように記載を適正化したというものでございます。
0:17:18	この修正を 85 ページまでいずれの断面でもやっております。
0:17:25	続いて 90 ページ
0:17:28	消火ありまして、A断層系の性状についての調査結果を説明している章になります。
0:17:34	91 ページに概要を示しておりますが大きい変更というのとはございません。
0:17:39	(1) 露頭をコアの観察から始まりまして、ブロック試料、薄片の観察、それから試料分析の結果を示しております。
0:17:49	92 ページから、まず露頭ボーリングコアの観察結果になりますが、
0:17:54	94 ページから順番にですね評価対象であるよう構造物直下の断層というのと、
0:18:01	上載地層を有するH9 断層の観察記録を示しております。
0:18:07	この内容は変わっておりませんが前回部屋で少し記載がわかりにくいの手法述語が明確じゃないと、ご指摘受けた箇所については見直しを行っております。
0:18:17	また針貫入のスラリーをはるかに試験のスライドをですけれども例えば 96 ページ。
0:18:25	では、そういったスライドですけれども、
0:18:27	この試験はどういった位置付けでやったのかというのをときちんと書いております。



0:18:33	断層面の母岩に比べて軟質なところというのを我々は裁量物質と呼んでおりますが、定性的にはすべての露頭で軟質であることを当然確認はしておりますが、それを定量的に確認するのは、この試験の目的ですので、
0:18:48	それがわかるように上の箱書きを修文しております。
0:18:52	他の露頭についても同様の修正を行っています。
0:18:58	S120 ページ。
0:19:01	ブロック試料薄片の観察結果ですね、こちらも内容は変わっておりません。例えば 121 ページは一段一段そうですけれども、その場ロック資料とそのCT画像を願います。その次のページがそのブロック試料からつくった薄片の観察結果です。
0:19:18	こういったブロック試料とそこからつくった薄片の観察結構ワンセットにして、
0:19:24	評価対象の断層と、
0:19:26	上載地層を有するH系断層の結果を示しております。
0:19:32	次 173 ページまで
0:19:38	飛んでいただきまして、ここから試料分析測定の結果になります。こちらも前回から変更はございませんで、
0:19:47	171 ページに、
0:19:51	試料分析の項目とその目的を示しております。露頭だとか薄片だとか、どちらかという定性的な観察記録ウになります。そのキロ観察結果に対しては定量的別観点から検討を行ったという位置付けでございまして、
0:20:10	イッキョク県税 2 ページのほうに結果のまとめは掲載しております。内容は変わっておりません。
0:20:22	次の 193 ページのこれらのH断層系の性状についてのまとめを行ったスライドになります。
0:20:30	。
0:20:31	次 195 ページ調査結果を示している最後の章になりますが、深部構造を御示しておるの調査結果を述べている章になります。
0:20:44	196 ページの概要でございます。内容は前回から変わっておりませんが、先ほど少し御説明させていただいた海域の調査結果を盛り込むなど、誓いの充実は図っております。
0:20:57	それから、各節、
0:21:00	(1)から(2)とこの上の箱を率いもございまして、タイトル。
0:21:06	核熱のタイトルも、検討内容が明確になるように見直しを行っております。その中身が変わってませんかタイトルだけ変えたというものです。

0:21:15	またこのスライド検討の流れがわかりやすいように、が検討されというのも追記をしております。
0:21:26	概要だけ中身を御説明しますが、198 ページ。
0:21:31	まず敷地の地質調査結果。
0:21:33	ごめんなさい地質の敷地の地質構造調査ということで、
0:21:39	使う構造調査の結果を中心にお示しています。
0:21:44	200 ページ 2 からが陸域の調査結果です。これは以前からお示しているもので 201 ページに反射断面の 1 例がございます。
0:21:55	箱書きの 2 ポツ、
0:21:58	からになります、浅部の話斜面は比較的多くて、H断層系の特徴に一致した不連続面が認められる。それに対して、3 ポツへ深部の反射面は連続性がよくて、
0:22:11	深いところには 1000 分の 1 断層意見のような形態の断層というのは見られないと。
0:22:18	深部から延びてくるような断層もないというものです。
0:22:22	それから最後のポツ強気の反射面は深部の反射面に対し相対的に図面の右側液体傾斜する傾向が見られます。
0:22:31	一部この後、追加している会議との表現が
0:22:36	の記載の整合を図った部分でございますが、結果としては変わらないものです。
0:22:43	207 ページからが追加した海域の調査結果になります。ハンセイ記録としては、この 4. 一章に
0:22:51	全測線延長の記録をお示しておりましたが、あまり深部構造に着目した解釈が示せておりませんでしたので、今回調査結果のモリモト性という観点で解釈を追加しています。
0:23:04	検討対象は 1 断層系の走向に直交する測線aのうち、深部にかけての発生記録が良好な 2 測線でございます。
0:23:15	発生記録の解釈を 208 ページと 209 ページに示しておりますが、
0:23:21	いずれも、
0:23:24	陸域と同様な結果が得られております。
0:23:27	浅い部分では反射面も弱くてA断層系と関連が考えられる構造が認められるのに対して、深部の反射面というのは強く連続性がいいという。
0:23:37	で、深部から延びてくるような断層もないということです。
0:23:42	また地表付近の反射面は新聞話し合うに対して具体的に図面の右側記載へ傾斜する傾向が見られております。
0:23:52	250 ページから陸と海まとめたものになります、

0:23:58	今回従来しっかりお示していなかった海域についても発生記録の解釈を追加しておりますが、その関係でいくとみ統一的な表現に見直しを行っておりますが、結果としては従来と同じ陸で言っていたことは、海でもいえるということ網羅的に示しております。
0:24:16	下の箱書きになりますが、ここで確認した内容というのが次に示す。
0:24:22	大深度ボーリングの公益調査、その次に示す深部の鍵層と断層の観察、これに繋がるのかというのは流れで流れとして示しております。
0:24:36	次 211 ページからは、まだ調査変わりました大深度ボーリングの孔平均を見て、地層の向きが深度方向へ変化する様子を調べた結果を示しております。前回と同じですけども、
0:24:52	218 ページに反射断面に地層の走向の変化を重ねたものですが、
0:24:58	今日は攻めより浅い部分で地層の向きが変わっていてこの部分が後方回転しているというものです。
0:25:05	それを平面的に見てやったのが 220 ページ。
0:25:09	大局的な地質構造の構造に対して赤で囲った範囲というのが違う向きを向いている高回転しているというものです。
0:25:17	じゃあさっきの分布とも概ね対応しております。
0:25:22	江畑調査官ありまして 222 ページ。
0:25:26	シームの火事相談そのボーリングコアの観察結果ですけどこれも前回と同じなので、
0:25:33	簡単に御説明しますが、225 ページ、敷地の深部でも、
0:25:39	あ、ごめんなさい、224 ページですね。
0:25:43	浅部ではJA合計 67 凝灰岩層が映画なく連続していることを確認しております。
0:25:53	227 ページからその連続している鍵層より深いところの断層を見てみたというのがここからの検討になりますが、
0:26:03	例えば 134 ページ。
0:26:07	何か 2 行の観察記録を載せておりますが、深部の断層というのは、浅部の断層と性状が違うところを確認しております。
0:26:15	敷地の深部構造については以上です。240 ページにまとめの記載がございます。
0:26:23	次に 141 ページになりますが、ここまで 4. 一章から 4.3 章分布形態性状深部構造の調査結果を御説明しましたが、この結果を一覧表でまとめております。
0:26:36	前回は 4.2 章の精度しか一覧表で示しておりませんでした、今回すべての調査結果で網羅的に確認できるスライドを追加しております。

0:26:45	この水位 4.4 章で、これらの結果を使った評価を行っておりますが、どこの部分を使って、主に評価しているんだというところを、その都度、この一覧表に立ち返ってお示してる形で説明しております。
0:27:01	次の 242 ページ、こちらは冒頭で御説明した重要構造物、それから、上載地層との位置関係を踏まえたH断層系の評価方針になります。
0:27:11	分布形態の調査、それから正常で露頭の調査から位置関係というのが把握できておりますのでそれを踏まえて、
0:27:19	どうやって評価していくんだということですけども、繰り返しになりますが、H m4 からH-7 断層までを評価対象として、上載地層のある時断層含めてどれでも活動性評価の代表ができるんだというところを示した上で、
0:27:35	19 断層の最新活動時期を持って活動性を評価すると。
0:27:40	というのが、ここまでの説明内容を踏まえた評価方針になります。
0:27:45	243 ページはその方針のもとここから先どういった検討を行っているのかというのをフローのような形でお示しているというものです。
0:27:56	次に 144 ページ目から 4.4 章、H断層系の分布形態を性状等に基づく評価というタイトルですが、
0:28:06	次の 145 ページご覧いただきますと、こちらに概要を示しております。
0:28:12	ここで重要物ここ重要構造物直下の断層とF9 断層の活動性評価というのはどれでも代表できることをお示しています。とコメントNo.85 円の直接的な回答になります。
0:28:25	この用地としては、水色の箱書きの部分になりますが、
0:28:30	その下に(1)から(3)で示しております検討。
0:28:35	分布形態に基づく定期的な検討、それから性状に基づく技術的な検討によりまして、Hm様からH7 それからH9 断層というのは、相良層が未個人から半固結の時代に一体としてできたパソコンであって、
0:28:53	これ個別には動いていないと瘻性方位ずれ断層の活動していないと考えられることから、各断層の活動的すべて同じ時代、
0:29:03	活動性は分断それも代表できるというところを説明します。
0:29:08	前回左側形成時形成後と時間スケールで時間軸で分けた上でそれぞれビス巨視的な検討微視的な点等を説明するという構成とっておりましたが、今回は挙手的な検討ビス的な検討と。
0:29:23	SCALEで分けた上で、その中で形成時と形成後の話をしているという構成ですが検討内容としては変わってませんが今の構成のほうがやっている内容をより御理解いただきやすいかなということで見直しております。

0:29:39	246 ページからまず巨視的な検討断層形態に基づく検討ということで、1 断層系の活動機構活動にメカニズムも形成時と平成 5 に分けて検討しております。
0:29:53	次の 247 ページ。
0:29:56	先ほど、
0:29:57	241 ページで示した調査結果の一覧表になりますが、これを使って、この小江活動機構の検討に当たって主な根拠としているデータを赤枠で囲っております。走向傾斜落差断層間距離それから地層の後方回転に関連する
0:30:14	主には断層の形態に関するデータを使って評価を行っているというもので、ここでは 18 も含めて検討を行っております。
0:30:24	次に 148 ページ、まず形成機構として、一段組織はどういったき方をしたのか形成時の話をしています。
0:30:33	249 ページに、
0:30:36	分布形態深部構造の調査結果から、こういったことが言えますという評価を書いております。
0:30:42	下の箱書きですが、分布形態の類似性がある地層の後方回転を伴っている分布範囲が限られているということが言えます。
0:30:51	別に 150 ページ、これはその前まずと、
0:30:54	時の措置はこういったメカニズムにできたと考えられますということを、下の箱書きに従わ箱に書いておりますが、
0:31:02	一段組織は分布形態の類似性が認められ等間隔に併走し、ほぼ同傾斜どう落差を持つ正断層群ですので、
0:31:12	白尾層群であって、断層間ブロックの後方回転を伴うという形態的な特徴を持ちます。また分布は局所的応力場というのも調和的では京成に関しては調和的ではないと、以上より、一番そこは局所的に生じた引っ張り力により、
0:31:30	断層間ブロックの声というのに伴ってすべての断層が一体として活動し形成された断層群であると考えております。
0:31:38	こういう弊社調査に基づく評価があった上で、次のごめんなさい次の次のページ、252 ページ。
0:31:47	西縁断層教科書なんか見てみると、一番そういう軽度横に居た形態を持つ断層というのはのみの法律と呼ばれていて、その次に 153 ページ。
0:31:57	特徴についてのおつき合いを見ていると同時に回転活動するとされておりまして、じゃあそこは一体として形成されたと評価したその内容というのも合致しているというものでございます。
0:32:12	次に 156 ページから

0:32:17	今度は形成後、
0:32:20	お話は一体でできたとさっき説明したのですが次に動くとしたらどうやって動くのかというのを検討しています。文献などを参考にしておりますが、
0:32:33	257 ページを参考にした知見としては、ごみの法律のインバージョンテクニクスになります。引張場で同時に歴民の法律は応力場が圧縮に転じて、再び国債はやはり同時に逆断層として動く。
0:32:48	されています。
0:32:50	それをH断層系に照らすとどうかというのを 258 ページに書いておりますが、上の箱の部分になります。
0:32:58	どんな法律は応力場は変わっても、再び大きく差異は同時に動くんだから応力場は変わってすらいないうち断層系も再び大きく差異は同時打サグチ一体で動くと考えられます。
0:33:10	またその下の箱の一番先の形態的特徴としておりますが、同じ傾斜同じ落差を持っています。わかりに形成後に一部の断層が個別に動いたら落差に顕著な差異というのは当然出てくるんですけどもそういった差異もない。
0:33:25	以上のLとH断層系というのは形成後においてひとたび活動する際もすべての断層が一体としてあとする阿蘇郡であって、できた後は個別に他、一番断層が動くということはないというふうに考えております。
0:33:42	その人緑箱になりますが、少し形成後の活動については詳細にしっかり見てみようということで微細構造も含めた調査結果をもとにさらに検討を加えております。これは後程説明する内容になります。
0:33:57	259 ページが
0:34:00	形成時形成後の活動以降のまとめです。できるときは一体でできた後も一体個別には動いていないというような内容です。
0:34:10	次に 160 ページ、今度は断層性状に基づく微視的な検討をここから二つ御説明しております。
0:34:18	まず一番先がどういった時期にできたのかというのを検討しております。261 ページに検討にあたっての根拠としているデータを赤枠で囲っております。
0:34:28	断層面の形状される物質の中の構造読み断層性状に関するデータを使って評価を行っております。
0:34:36	ここでは重要構造物直下の断層とF9 断層のデータを見て、これらの断層の形成時期について検討を行っている。
0:34:44	いうものです。
0:34:47	内容は前回御説明した通りですが、262 ページ。

0:34:53	1 断層地形が形成された時期とそれから層が固まった時期の関係をまず見てやろうということで、岩盤中で活動した断層の性状がどういったものか整理をしています真ん中の箱書きが文献が記載です。
0:35:09	こういった知見踏まえると一番下の箱岩盤において動いた断層というのは、AからE、
0:35:15	平滑な断層面だとか、角礫状破碎部こういった性状が見られると考えられます。
0:35:21	263 ページ、そういった目で一番総研が正常の調査結果見てやるとWeb表で対比させてますが、その辺をねって言って平面的ではないんだとか、一致はしませんので、
0:35:34	岩盤において活動した断層に見られる特徴はないということを言っています。
0:35:40	なおかつ、このときに使った性状というのは全部の断層で類似していることを確認しております。
0:35:47	次へ少し 267 ページ。
0:35:52	じゃあ、岩盤中の断層とは違うけれども、早期に断層の活動時期ってというのは一般的にどう整理されているのかというのを文献から南を見ています。
0:36:03	それと同じ特徴も嘘というのは地層が未固結から半固結の時代に形成されたものと、いずれもされております。
0:36:12	168 ページは以上を踏まえた 1 断層系の形成時期のまとめです。
0:36:17	上の箱の一つ目の丸ばいずれの断層も岩盤において活動した断層に認められる性状というのはないことを確認しています。それはすべて内ということで、類似をしています。
0:36:31	二つ目のマルa断層系に類似した性状を示す断層というのは、このやわらかい地盤がやわらかいゼロにできたのだということが言われていますので以上より、一番下の箱十八番になりますが、
0:36:46	いつも先に属する断層いずれも相良層が未固結から半固結の時代の一時期相良層の固結度がある一定の時期に形成された断層であるというふうに考えております。
0:37:01	次 270 ページになりますが、
0:37:05	一方、
0:37:06	弾塑性ように基づく地質的な継続の二つ目、今度は形成後の話ですけど形成時やわらか時期にできたんだと言いましたがこんな形成後の話。
0:37:16	そもそも形成後に各断層が動いているのかという観点で検討をしています。
0:37:22	271 ページに検討方針に書いておりますが、内容は前回から変わっておりません。一番それができた後に再び活動していたわ場合見られるであろう現象が、

0:37:34	文献付け露頭を微細構造、こういったところにあるのかなのかというのを見えています。
0:37:41	次の 272 ページでは例によって主な根拠としているデータを赤枠で示しております。一番の地形調査の結果を使って説明したりもしておりますけれども、
0:37:53	主には裁量ベストの構造といった組成に関するデータを使って評価をしているというものです。
0:38:01	ここでも重要構造物断層とH9 断層のデータを見て、これの断層の形成後の活動を検討しております。
0:38:13	具体的な部分ですが 273 ページからH断層系が再び活動した痕跡というのは文献にも出ておりませんし、274 ページ、地形にも出ていない。
0:38:25	275 ページ。
0:38:27	直上の 4 期層の平均としても出ておりません。
0:38:30	276 ページ、先ほどご紹介した通り、岩盤が固結してから動いた痕跡もない。
0:38:38	で 273 億 7277 ページ。
0:38:42	複数回活動した断層に見られる性状があるのかという観点でも見ていますがそういった構造も確認をしておりません。
0:38:53	278 ページまとめになります。形成後に活動しているのかという観点で再活動していた場合の想定されるありとあらゆる痕跡探したけれども、いずれもないということから、なかなか箱いずれの断層も形成後の活動はないと。
0:39:10	考えております。
0:39:13	次に 179 ページ。
0:39:16	ここまで三つ円筒御説明させていただきましたが、
0:39:21	(1)、
0:39:23	形成時も形成後も一体で動いて個別に動くものではないと。
0:39:27	(2) 正常に基づいてみると、大阪層が未固結から半固結の時代の 1 時期にできたんだ。
0:39:34	(3) 形成をにおける拡大後の活動はないということが言えますので、一番下の青箱
0:39:42	H断層系のうち、
0:39:44	重要構造物直下のHm4 から発送まで、それと、上載地層を有するH9 断層というのは、それからそうは未固結から半固結の時代に一体として形成された断層群であり、形成後においても個別には活動していない。
0:40:00	生後いずれ後も活動していないということが確認できましたので、各断層の活動時期はすべて同じであると評価しております。



0:40:11	従って、これらの断層の活動性評価はどう断層でも代表できると判断をしております。
0:40:16	ということで評価対象であるHMから1名断層の活動性は19断層の活動をもつて評価することいたしました。資料としてはまずここまでがコメント85円の回答へととなります。
0:40:33	S1/80ページ。
0:40:35	コメントの86番、への回答として裁量物質が周辺母岩に比べナースであることの考察のスライドをここに入れております。
0:40:46	前回比ではもう少し、前段の部分で、このスライド入れておりましたが、探そう結合の活動をしっかりしてしてからサービスがなしである要因を設置するのは、本来ですので、一連の検討を終えたこの位置に構成として見直しております。
0:41:02	この要因としては、下の箱書きの最後のポツの部分で①から③としております。ですが、この三つが考えられるというものです。ここで前回の説明と同じです。
0:41:15	そのあとなお以降今回追加しています。
0:41:18	①から③以外の理由としてされる物質への選択的な地表水の浸透による影響というのが考えられますが、
0:41:27	露頭での調査により、そういった影響はないと判断をしております。
0:41:32	総裁は282ページに記載しておりますが、前回会合で石渡先生からなんで採用ビスやわらかいんだという御質問を受けて、
0:41:44	地表水もここを通りやすいのと口頭で回答させていただきました。その際に、それであればマンガンの析出などの証拠も出てくるはずだというコメントをさせていただいておりましたが、
0:41:58	そういった証拠がないかという調査を行っております。その結果としてですね前の隻数見られませんでしたので、軟質である理由の中に地表水の影響は含めなかったというのは先ほどのスライドの濃度が来の部分になります。
0:42:13	調査は具体的に何やったかといいますと、この漫画ができていけば、過酸化水素水かけてやれば、
0:42:20	理科の実験で浴場に水素と酸素、
0:42:25	気体は発生しますので、その気体の発生ぐらいを指標に断層面の裁量ビス周りを見てやったというものです。
0:42:33	結果として、個別に特化して期待はハイリスク発生するわけではないと。
0:42:38	すなわちされる物質場合に、地表水に溶け込んでいるような脳腫瘍析出しているわけではないということが確認できておりますので、
0:42:51	先ほどの一部に反映したというものです。

0:42:56	これが 82 ページと 283 ページの内容を前回避やから追加したスライドになります。
0:43:03	今回コメント回答のうち、前回資料からの主な修正点は以上です。資料としてはですねこの後に 184 ページから 4.5 のケース 4.5 章形成要因、
0:43:17	310 ページから
0:43:19	4.6 章のタイトルだけに直させていただきましたが、H系断層の最新活動時期、 これの検討を
0:43:28	行っております内容に変更ありませんので説明は割愛させていただきます。
0:43:35	すいません。H断層系の活動性評価をまとめて文書で記載したもの、それから一連の評価の流れを変えているフロー図というのが 373 ページ以降ございますが、こちらも今回の見直しに合わせて修正を行っております。
0:43:54	本部こちらの修正箇所、以上になります。
0:43:58	本日は補足説明資料のデータ集についても前回引当いただいているコメントを踏まえまして、地裁適正化図っております。修正して本日提出させていただきます。
0:44:13	はい資料の修正点説明は以上でございます。
0:44:20	はい。規制庁のスガヤです。ありがとうございました。
0:44:24	ちょっと
0:44:25	9 月入っていく前に、ちょっと確認なんですけど、前回ヒアリングからの修正箇所っていうやつで 41 枚の裏表紙ありますけれども、ちょっと私これ見ながらいろいろ確認をしてたんですけど、ちょっとわからないところがあって、
0:44:39	修正箇所の番号の 7 番と 8 番ってというのが適正化したっていうふうに書いてあったんですけど、ちょっと前回の資料と今回の資料を見るとなんか僕にはちょっと変わってないように見えたんですけど、僕が見つけられないのか或いは
0:44:56	御社のほうでちょっと修正そびれちゃったのか。
0:44:59	どちらかなと思ってちょっと確認させていただきたいんですけど、
0:45:03	No.7 っていうやつは 57 ページ。
0:45:14	57 ページの箱書きの 2 ポツの記載を適正化って書いてあって、
0:45:20	括弧露頭ボーリングコア観察結果を掲載した方のページも同様の修正を実施って書いてあって、前回のヒアリング資料で言うと 20 ページが 29 ページ。
0:45:32	書いてあります。
0:45:38	中部電力モリモトで
0:45:40	ございます。
0:45:43	57 ページですね、すみませんあの一覧表のほうにですね箱書き、
0:45:50	期待できないかというふうに

0:45:52	はい、先ほど言いましたが、今の田んぼの誤りでございました。
0:45:58	内容、すみませんけど、
0:46:01	規制庁の菅井ですけどもちょっと音声が見られてるんですけども、
0:46:11	画像ともちょっと今見られそう出てます。
0:46:16	こちら聞こえますか、こちらの声としまして、
0:46:20	はい、おスガヤさんの声聞こえております聞こえますでしょうか。はい、今は大丈夫ですね。はい。
0:46:27	ちょっと回答いただくところからちょっと乱れちゃったのでそこからまたお願いします。
0:46:35	7 番ですけども、箱書きにポツとしておりましたが、
0:46:39	3 ポツの誤りでございました失礼いたしました。
0:46:44	3 ポツの部分、
0:46:50	母岩は固結しているというところを説明しているんですけども前回の資料だと何が固結しているのかわかりにくいねという御指摘をいただいております、装填修文をしたというものでございます。失礼しました。
0:47:03	規制庁スガヤですはいわかりました。あと 63 ページのほうはどうですかこの次の
0:47:08	No.8 の
0:47:10	これも箱書き 3 ポツの記載を適正化したって書いてあるんですけど。
0:47:16	今回の資料で言うと 63 ページ前回の資料で言うと 35 ページ。
0:47:24	はい、モリモトです。失礼しました。こちらが 2 ポツの修正でございまして、上位が、
0:47:30	入れ替わっております 2 ポツの部分の部分を少し丁寧に変えたというところの修正でございまして。言ってることは変わってませんが、この記載を少し変えております。失礼しました。
0:47:44	規制庁スガヤですはいわかりましたありがとうございます。
0:47:59	規制庁スガヤですけども、
0:48:04	今回、再考されてってということで、最後御説明ありましたけれども、御社のその考え方ロジックっていうのがわかるのは、文章で言うとその 300 最後のほう 373 ページ 4 ページ、これ文章でまとめたやつですよ。
0:48:23	375 ページ 376 ページ。
0:48:29	ていうのがフローチャートのようにしてまとめて、
0:48:33	くださっていて、376 ページは、
0:48:38	調査結果についてまとめたということになっていると思います。

0:48:46	それで、基本的にはこの 375 ページで言うと、症の番号が振ってあったりとかして基本的にはこれ、左から右に流れていくような感じ或いは 4.4 章のところであれば、上から下に流れていくような感じ。
0:49:03	だと思います。一番上の箱書きのところにつけたH断層系の評価方針っていうふうにして書いてありますけれども、
0:49:11	ちょっとここで教えていただきたいところがあるんですけども、
0:49:15	冒頭のところで敷地を含む敷地を含む敷地周辺及び敷地極近傍の調査の結果によると、
0:49:25	H断層系は震源として考慮する活断層に該当しないと考えられることからっていうふうにして始まるんですけども、
0:49:34	このH断層系は震源として考慮する活断層に該当しないと考えられるっていうことに関して、
0:49:42	こう書いてあるページ場所っていうのはどこになりますかね。
0:49:49	一部電力のモリモトです。
0:49:53	こちらの部分が該当するのが 40 ページ
0:49:59	41 ページ。
0:50:02	右になりまして、
0:50:05	はい。
0:50:07	このイマイのスライドで先ほどの
0:50:14	375 ページでいきますと、一番上の箱書きのところを説明して、
0:50:21	おります。
0:50:22	で、375 ページの敷地を含む敷地周辺は米国近傍の調査結果というのは、
0:50:31	具体的に言いますと、40 ページ
0:50:35	それから 41 ページの上の白箱の部分で説明している内容でございます。
0:50:46	40 ページの右側部分、敷地周辺審査での御説明内容、それから、40 ページの右から、
0:50:54	41 ページの
0:50:57	上の白箱の部分というのは、この資料の一章から 3 章で述べている内容ということで整理でございます。
0:51:11	規制庁菅井です。はい。ここに書いてあるってことなんですけど、根拠はどこですかって言われたらどこに書いてありますか。
0:51:23	総計は震源として考慮する活断層に該当しないんですよっていう根拠っていうのは特に書いてありますか。
0:51:35	モリモトですと 40 ページのほうから御説明させていただきますが、
0:51:42	まず周辺の方からですが荷物の部分ですね、

0:51:49	引き続き 4 で評価している震源として考慮する活断層はこれだというのを四つ示していて、それ以外の部分というのは、震源として考慮する活断層だな。それ以外にはないことを
0:52:03	周辺地質のほうで御説明させていただいているというところで、さらにへ水をふやして、敷地周辺ごく近傍についても見ている内容が 40 ページの右側からになります、
0:52:16	その説明内容というのを、41 ページの上の白箱で示しております。
0:52:24	主には思いますごめんなさい。文献調査、それから地形調査でもそういった構造というのは見られない。
0:52:33	いうことを確認しておりますし、3 ポツの部分で地下構造調査結果という記載真ん中にございますけれども、
0:52:46	地震動として評価している図 7 総務というのも、地下構造調査結果には、
0:52:52	反射断面には出ておりませんし、
0:52:55	その他の断層の地下深部から連続するようなものが確認していないと見られないというところを確認したというものでございます。ここ概要ダイジェストでお示しておりますが、具体的にはですね
0:53:11	3 ポツ、地下構造調査結果なんかで言いますと、31 ページだとか、32 ページに反射記録としてはお示しをしております。
0:53:24	はい。
0:53:26	。
0:53:27	はい。規制庁サグチですけども、
0:53:30	今回の資料をそういう形で前回でもちらつとはあったんですけど、私が一番よくわからないのは、今言われていることは、ここでもうすぐくなんていうんですかね。
0:53:45	売差的というのか、一般的なことについて言われていて、
0:53:54	それプラス、当然、
0:53:57	1 断層というものに着目して、
0:54:00	どうかということが実は深部構造との関係のところではより御社って詳しく見られているわけですね。そういうものっていうのは、こういうところに入ってくるんでしょうか。こないんでしょうか。
0:54:25	もうちょっと具体的に言いますと、
0:54:30	今、地下構造調査のところっていうのは何か基本的に反射法とか、海上音波探査とかただであって、これに要は深部ボーリングとか、そういうのも当然調査をされていて、
0:54:45	かつ

0:54:49	ちょっとページずっともつと後ろのほうになるんですけど、このH断層っていうのが新聞に続くようなものではないということをきちんとそこ言っているはずなんですけど、今まで
0:55:02	今回の資料だと。
0:55:04	そうそういうことも含めて、
0:55:08	1断層は、
0:55:09	震源として考慮する活断層には該当しない。
0:55:13	ということなのかなと私は理解していたんですけど、今回の資料だとそうじゃなくて、もつともつとなってるんですかね。
0:55:22	大枠として、最初のところで何か反射法で特に反射法で深部から連続するようなものも見られない視野と変動地形学的なもので、そういう形跡も見られないんで。
0:55:41	敷地周辺の活断層評価のところでは評価したもの以外の
0:55:47	震源としてそれを考慮する活断層はないということだけを言っていると思うんですけど、そのあたり、どう考えてるのかちょっと教えてもらっていいですか。
0:56:02	中部臨空イマイでございます。ここにつきましては前回前回の中ではですね、H断層系の4章の中で途中で1断層系は審議なぜ考慮しないというのを記載させていただいておりましたけれども、そこはちょっとロジックが逆にちょっとわかりにくくなってたということで、
0:56:17	今回は1から3章の中で一旦その震源の浅い湖当たる断層がないということを示させていただいた上で、容赦移行率や総計の打ち合わせにつきましては基本的に重要施設の直下でございますので、将来活動する。
0:56:33	外でないということをお目に示していくというような構成にさせていただいております。そこにサクサの今回、ただいまのコメントにつきましてはですね240ページを見ていただきたいんですけども、
0:56:48	こちらにおきまして、4.3章敷地深部の地質地質構造のまとめとさせていただいております。
0:56:54	こちらにおきましてですね、一番最後のところに書いてございますけれども、これは敷地深部の地質地質構造に関する調査結果は、敷地を含む敷地周辺及び敷地極近傍の調査結果により、H断層系は震源として考慮使用する活断層に該当しないと。
0:57:10	とした検討結果と整合的であるというところでですね、上の位置付けの深部構造の調査結果を踏まえても、先ほどの4章の冒頭でお示した内容に関しましては整合的であるというところをここにフォローアップをしているというような構成に今回させていただいております。以上です。

0:57:31	はい、サグチです。ということですよ。少なくともこの深部ボーリングとかは、御社はあくまでも確認のものという位置付けであって、
0:57:43	この調査結果を
0:57:45	積極的には、
0:57:47	そのH断層が震源として考慮する活断層に該当しないということのエビデンスとしては用いないという理解でよろしいですか。今の説明だとそう
0:57:59	聞こえるんですけど。
0:58:04	自分のイマイです。前回のちょっとヒアリングのときにですね、
0:58:10	一応先が審議の総会中というところの議論があったものですから今回ちょっと見直しさせていただいておりますけれども、基本的には1から3章のエビデンスでもって一番早期も含めてですね、敷地には次の外になるようなものはないというのは一旦閉めさせていただいておりますけれども、
0:58:27	ということと、一番好きじゃ基本的にはその10施設の直下にある断層で、将来活動する断層等でないということを示すことが最終的な目的であると。
0:58:37	それを示せばキチン的にはもう審議なされないということも含めて、示しすることになると思いますので、今回はそのようなロジックにさせていただいているということでありまして、深部構造に断層系の4.3章の深部構造の評価がもちろんその
0:58:53	一応総計が震源断層ということの警備LESにはなっているというふうには理解をしております。以上です。
0:59:00	はい、サグチです。こういう説明であれば理解はするんですけど、ちょっと前回等の兼ね合いもあるのかもしれないんですけど、今回、まず、
0:59:13	1断層が震源として考慮する活断層に該当しないということを行った上で、つまり、前回のヒアリングでの確認も踏まえて、1-8というのは一旦外しますよ。
0:59:29	これは三条対象じゃないので。
0:59:32	その他について、基本的には将来活動する可能性のある
0:59:39	何相当かどうかというのをまず見るんですけど、ただしその評価のもう過程において、地球は実は四条対象であるんだけど、これが上載層
0:59:51	によってその活動年代を評価することも踏まえて、H級も含めて、
0:59:57	H8は除いたけれどもそれ以外について、まず性状等、
1:00:03	ちゃんと同じものなのかどうかというのを見ました。そういうストーリーで、今回は来ているってということでまずよろしいですよ。
1:00:17	このモリモトです。はい、そうです。
1:00:19	その通りです。

1:00:21	はい。そうすると前はちょっとその辺がクリアじゃなかったのっていう部分もあるんですけど、今回はある程度その方針としてはクリアになったかなと思うので、そうすると、じゃあ何をもって、1 断層を
1:00:37	震源等をして考慮する活断層に該当しないとするかって言うので。
1:00:42	さっき私確認しましたがけど、この 4 点を参照なりのこの深部大深度ボーリングっていうので 12 の深い部分っていうのは見ているんですけど、それで、じゃあこれは本当に積極的にエビデンスとして使うものが使わないものか。
1:01:02	お聞きして最終的には先ほど一応エビデンスとしては使っていますよということなんでそこをやっぱりですね。
1:01:11	ちゃんとわかるように、その関係です。
1:01:15	つまりその
1:01:19	言ってしまうと、外さ的なもの。
1:01:25	プラスした上でさらにH断層についてはこういった深部ボーリングも用いていますみたいな、
1:01:34	そういう話というのか、説明がないと。
1:01:39	うん。ちょっと、少なくとも私は理解ができない。
1:01:44	ということなんですけど。
1:01:46	そういったところを含めてちょっと
1:01:48	もう 1 回ですね、
1:01:51	例えば資料構成はこのままにしたとしても、何か何らかの形で飛ばして、
1:01:57	さらに詳細についてはここで見ていますとかっていう、そういうのがあると思うんですけど、だから、一応、
1:02:03	これについても、この深部ボーリングについても、根拠として、エビデンスとして用いているという。
1:02:09	そこだけちょっと確認してください。
1:02:12	用いてるでいいんですよね本当に
1:02:19	中部電力アマンでございます。実はサグチさん御指摘のところ、我々も悩んでいたところで一章から参照モリモトが説明した通り一章から 3 章のところまでマクロな観点としては当然震源断層ではないよということは、
1:02:38	見えているとは思うものしっかり私たちとしてはなしの調査もやってましてこのデータっていうのも御提示しておりますのでこれはしっかりとしたエビデンスだというふうに認識をしております。ただ一方で、今回のロジックでサグチさんがご理解いただいた通りで、
1:02:58	敷地の重要物直下と、地球というところをしっかりと見ていくよという中でやっばりどうしてもなんかこうつきやダイクみたいになっちゃって。



1:03:10	いきなり地下構造、最初に持ってくると、むしろまた出てくるみたいな、
1:03:16	どういう登場のさせ方がいいかというのは悩んだ上で今回は 240 ページにあるようにマクロで見たところに対してしっかりとした調査をやった結果は整合的ですよと少し止めた表記をしてるんですけど
1:03:33	御確認の趣旨は理解しておりますので、ちょっとここんどこ我々もしっかりしたデータをとってあわせて確認しているんだっていうところがわかるような表記を考えたいと思います。
1:03:51	はい、サグチです。その辺に関してはよろしくお願いします。
1:04:05	規制庁ナイトウですけれども、資料も確認をしていますけれども、敷地周辺るときには、知識つないには地形が認められるけれどもH系については敷地内できちんと説明活動性がないことを説明するのっていつて、周辺では一切説明してないんじゃないんですっけ。
1:04:23	それで、周辺で説明しているかと今回の説明を周辺で説明したように、起震断層ではないとしてるんだけど。
1:04:33	周辺では説明してないと動けてないという認識なんだけど違いましたっけ。
1:04:43	中部電力のヒサマツです。当時 17 断層って褶曲構造比木向斜だとか、女神背斜だとかああいうところが議論になって、あれの活動性つってやっているときに、その時に敷地内にも、
1:05:00	層理面滑りだとか、そういった構造もあるだろうからそういったところを着目して敷地内見ていかないといけないよっていうことで、
1:05:11	敷地内のほうで 17 は評価するんだけど。
1:05:17	震源断層として評価するんだけどその詳しいことについては敷地内でやりましようねっていうことだったのかなあとちょっと記憶確認しないと駄目ですけど、H断層というよりは比木向斜だとか、構造としてしっかり見えている震源断層として評価しないといけないところについて、
1:05:38	引き続きというか、先に。
1:05:40	やりましようっていうそんな話だったかと思ったんですけど、すみません。
1:05:47	規制庁それS今言ったの 17 話だよ。17 の議論が始まる前にそもそもの整理として、敷地内にはH系っていうのは下がるんだけどそれは敷地内できちんと説明しますとそれ以外のものについて、起振断層かどうなのかってのは敷地周辺でやりまそうってそういう整理じゃなかったでしたっけ。
1:06:08	中部電力ヒサマツです。確かにあの周辺の中で位置の話はしていない。
1:06:15	はずです。
1:06:17	はい。
1:06:17	以上です。

1:06:18	はい。
1:06:27	規制庁ナイトウですけども、いや、これを敷地内とこ個々の地域においてH系っていうものがあるってことは当然最初からわかってる話なんだけど、周辺のところで一切触れてないで周辺のところで、起震断層ではないので、敷き詰めと起震断層ではありません。
1:06:45	と言われても何かグルグル回っているところでも説明されてないような気がするんだけど。
1:06:49	この論理構成でいくということでもいいですか。
1:06:53	中部電力ヒサマツですすいません。
1:06:57	周辺の場合、蓄水判読だとかそういう文献地形、ここに書いてある通りなんですけど、文献地形等でH断層のほうは上がってこないというか、断層自体はあるんだけどあの周辺にそういった痕跡が見られないということで、
1:07:13	抽出されてこない断層だったかと思います。
1:07:16	やっぱり褶曲構造として、認められている構造として認められているものに着目して審査をさせていただいたかと思っています。以上です。
1:07:41	規制庁ないと思います。すいません。
1:07:45	あのね、
1:07:48	各種調査をした結果として1K断層っていうのが存在するっていうのもわかっていて、ただ文献で示されてないから、起震断層ではありませんというふうに言ってる機関ですそれはあり得ないと思うんだけど、そういう論理構成なんですか。
1:08:06	中部電力のモリモトですけども、
1:08:10	文献つける出てこないからないと言っているわけではなくて、周辺の中でもです、まず
1:08:17	周辺との関係というのは、
1:08:19	周辺地域数の制度で調査をしたところ、時断層系というのは、
1:08:26	出てこないと。
1:08:27	いざ先も含めて脊椎にはそういった構造というのがないというのがまず一旦敷地周辺の御説明内容、
1:08:36	ですのでそれにこれがさらに詳細に調査をします小ということで、次市場中心により水に地下構造調査についてもですね測線をふやしてみてもやったというのが敷地内での御説明内容で、その中で、文献地形にも当然ないんだけど、

1:08:55	地下構造調査をやってみても、深部あごめんなさい、浅いところに不連続面としてH断層は認識しているんだけど、それが深部に連続してないことはしっかり確認しておりますので、決して
1:09:10	出てこないから、無事に出てこないから地形に出てこないからというので、敷地周辺の制度だけで落としているというわけではないというものでございます。
1:09:23	規制庁の伊藤ですけれども、それからさっきサグチてるけど、じゃあ皆さんは地形は何何を根拠に起震断層ではないと言ってるんですか。
1:09:41	中部電力イマイでございます。今モリモトからもありましたように、基本的には文献と敷地 10 円の議論では一応あそこやとく確かにとって直接扱ってませんので、今回の敷地の地質地質構造として、今回 1 から 3 章文献地形で 3 章のほうには地下構造調査も含めて、
1:10:00	反射地震探査も含めて、少なくとも震源断層じゃないっていうところは、この調査でも確認できているだろうというところで、1 から 3 章のイベントツリーでもって、そう判断を一旦したというところでございます。
1:10:15	ただもう 4.3 章ですね、この敷地の断層だということで、詳細の調査をしておりますので、そこにつきましては先ほどサグチ坂さんからありましたようにちょっとひもづけをしましてですね、それも重要なエビデンスだということではちょっと資料はそっち少し直させていただきたいと考えております。以上です。
1:11:00	規制庁ナイトウですけれども、刀禰なんかこう、今回説明して皆さんのやつのスタート地点は、市来断層は
1:11:11	起震断層ではないっていうところからスタートしてるんだけど。
1:11:16	地震断層ではないという評価は、
1:11:19	何エビデンスしてるんですか。
1:11:22	一切説明をしてきていなかった周辺の説明を根拠としてですか。
1:11:30	ナイトウさんのご質問にも直接的な回答をというのは
1:11:35	地下構造調査です。
1:11:38	この周辺からプラスアルファになっている要素が何かって言われると、地下構造調査でそれが周辺に比べて密にやった結果、話記録を使って、
1:11:49	17 章、敷地内には震源断層疑われるような構造として確認できてないと。
1:11:58	所持って
1:12:01	震源断層じゃないというふうに言っています。
1:12:14	規制庁ナイトウですけれども、そうするとねやっぱ資料で後ろについている。
1:12:20	ボーリングなり地価構造なりをよく敷地内をしっかりと調べた結果深部に連続していないから起震断層ではないというのが、エビデンスってことですか。
1:12:36	当然三条断層の中に

1:12:41	4、動きません。
1:12:44	うん。
1:12:46	将来活動する可能性がある断層等の中に震源断層入ってきます。
1:12:52	で、
1:12:53	4章ではH断層系が将来活動する可能性のある断層等には当たらないということの説明の中で、先ほどイマイからもありましたけれども、深部構造
1:13:06	のデータなどを使ってですね、この説明資料のビジネスにはなってるんですが、どうやって評価していくんだと評価方針をしていく示す中で、
1:13:18	重要構造物直下を相手にすればいいよねという整理をさせていただいたというのが今回の評価方針。
1:13:27	になります。
1:13:33	はい、サグチです。一応ですね。だから、今日の時点での説明で最もこれが、これが
1:13:41	震源として考慮する活断層ではないとする根拠としては 31 ページから 33 ページにあるような反射法だったり、海上音波探査、
1:13:55	という、今日はそういう御説明だったということでよろしいんですね。
1:14:05	つくれなくアmanoでございます。すいませんちょっと表記の仕方というところの問題だけかなと思ってるんですが、
1:14:15	溢水量から算出をもうすでに御説明してあるところで概略的にとかですねマクロな視点では、震源断層ではないというふうにもまず一旦評価した上で、モリモト申し上げた通りで、
1:14:30	将来活動する断層ではないっていうところにクローズアップして今回ロジック作って持ってきました。一方で 4.3 章の中で、しっかりと大深度ボーリング等の確認もしますねこれも先ほど申し上げた一章から 3 章に対して、
1:14:46	あわせた当然件数になっていますのでそこがちょっと離れてて読みにくいというところがあって要は早々に震源断層じゃないと評価しちゃって、後でをフォローしてるんですけどそのあたりが少し見えにくくて、
1:15:05	前半のエビデンスだけでは足りないんじゃないかというような御懸念かなと思うんで少しその辺りをもうちょっとわかるように伝えかなと思ってますので今資料自体は、将来活動しないというところをクローズアップして、
1:15:21	データを重視して、後ろのほう固めてきてしまってるので 4.3 章だけ前もってきちゃうとまた後ろがぐちゃぐちゃになっちゃうかなと思うんですけども、あわせて両方を示すというパターンもあり得るかなと思います。ちょっと考えさせていただきたいなと思います。
1:16:53	規制庁タニです。

1:16:55	375 ページなんですけど、これ前々から私
1:17:01	似たようなこと言ってるんですけども、結局地球断層の活動時期はすべて同じ時代である。だから、19 断層を評価すればいいんだっていうロジックの中に、
1:17:14	まず、
1:17:17	19 断層を対象に行う前提として、
1:17:21	やっぱり活動。
1:17:23	して、
1:17:24	内形成後には、
1:17:26	すべてが活動していないということがまた前提になって、
1:17:32	前提というかこういう評価のに基づいて地球断層が代表できるっていう話にしてるんですけども、結局これって、
1:17:42	もうすでにここで古い時代の断層なんだという過程がないと、19 断層を
1:17:50	なんていう対象に対処代表にできないのであれば、例えば、
1:17:54	ほかのですね。莓だとかH4 だとかがじゃどうして活動性を否定できるのかっていう話の中に結局形成後に、
1:18:04	いずれの断層も活動していないというこっち側が活動性評価のメインになってくるっていうことなんですか。
1:18:14	そういう理解でいいですかね。
1:18:20	この中部電力のモリモトですけども、急性後においていずれも活動していないということは言ってますけれども、京成が
1:18:33	いつだという年代も、
1:18:36	ご審議いただくのがこの審査の場かなと思ってまして、その
1:18:41	いざというルールが地層、
1:18:44	また鉱物脈という決まったルール。
1:18:47	ですので、そのルールにのっかって説明させていただいているという形です。
1:18:54	まじって生保動いてないからといってそれがいつ
1:19:00	いつの話なんだ成長たりですということは、この形成後っていうのが実は図十二、三万年前よりも新しいかもしれないとかいう話となっているんですかね、じゃあ我々下から倉庫が
1:19:16	未固結から半固結の時代に、
1:19:19	一体として形成されたっていうこの時期が後期更新世以降ではないっていうのを審査して欲しいという。
1:19:29	中部電力の考えなんですか。

1:19:34	本年度です。実際そういうわけではございませんで、あくまで審査の対象としては断層が少なくともいつ以降動いてないのかということかと思っております。
1:19:47	探せるの時代未婚率から半固結の時代がいつなんだということを見て欲しいというわけではなくて、相良層の
1:20:00	やわらかい状態からどんどん固まっていく過程の中で、
1:20:04	同じような性状してると、断層見目が一緒ということは、
1:20:09	その過程の中である1断面で、そこでずっと変わったマツスエって同時代に
1:20:18	活動が終わっているんだと。
1:20:19	いうところがいえるというふうに考えておまして、
1:20:22	じゃあその年代はいつなんだというところを年代で示そうと思うと今のルールにのっとると上載地層といろいろしかないのだからそれに則って御説明しているというものでございます。
1:20:41	。
1:20:41	はい、サグチですけれども、ちょっと今のところで追加で確認で
1:20:47	ということは結局、相良層をオオナミ高潔とか犯行月とかっていうことに限らずですね。
1:20:56	あくまでもここでの説明は、
1:20:59	1がすべて同じような時代にしか活動していないということをいう。
1:21:07	言いたいというだけで、そのじゃあ最後の活動というのはあくまでも上載地層で評価をしますよと。
1:21:18	そういう理解でよろしいですか。
1:21:26	モリモトです。おっしゃる通りです。お思いとしては、時代が
1:21:34	タイミングとして、同じだったと。
1:21:37	いうところが一番痛いところです。
1:22:01	すいません中部電力のモリモトですけれども、
1:22:07	ちょっと御質問させていただきたいのは大変前回位のヒアリングでもそうでしたが、結構この部分、
1:22:14	既にされていたかと思えますけれども、どういったほうが良いと
1:22:20	我々としてその差がそっか固まったのがいつかどうかっていう
1:22:25	所主体に審査して欲しいわけじゃなくて、
1:22:29	5まで後期更新世以降動いてないというところを今言えば、
1:22:34	クリアかなというふうに思ってるんですが、
1:22:36	陵さんのご質問の合意等を放出といいますか背景を教えてくださいませんかと思ひまして、
1:22:48	すみません、よろしく申し上げます。

1:22:57	はい、サグチです。
1:22:59	やっぱりその背景にはですね、その、あくまでもこれ我々の考え方で御社がとそれをとらえて評価するかっていうのはちょっと別の話ですけど、やっぱりこの際流物質っていうのが当然、1断層は伴う。
1:23:16	今回針貫入試験も他のところも含めてやっていただきましたけれども、やはり貫入試験とかも見る。これはあの会合でも多分コメントをしたと思いますけど、この与えて、
1:23:29	すごく低いんですよ。
1:23:31	もっと言うと、多分今回御社はそうそこまで示されていないくて、この後僕ちょっとし、
1:23:41	どうしようかなと思っていたんですけど、じゃあ例えば活断層って呼ばれるもの。
1:23:49	幾つもあると思いますけれども、他社さんとかでもいろいろそういうものを出していただいて比較とか検討していただいているんですけど。
1:23:59	そういうものの例えば断層面とかで針貫入した。
1:24:04	場合に比べても、それよりもさらに低いとか小さい値。
1:24:09	なんですよ。
1:24:10	0. 幾つっていう辺りが、
1:24:13	そうすると、
1:24:14	やっぱり本当にこれってそんなに
1:24:18	古い活動なのっていうのが、
1:24:21	一番の根底にまずあります。
1:24:25	すごくやわらかい状態で、
1:24:28	それでもうかつ探そうが未固結から半固結の時代の
1:24:33	時代で、
1:24:35	そのときにしか動いてませんよというところについて、やっぱり我々としてまだはてなマークが残っていて、
1:24:43	だから、
1:24:44	そういった意味で私はここで何か時代感を言うのではなくてあくまでもおんなじような時代で
1:24:55	京成なり形成後に動いたかどうかっていうのも含めてですね、活動をしたということがベーターから示されて、
1:25:05	それに対して最後に、上載地層として、メンバ位が後期更新世より新しいのか増えるのかということ
1:25:15	評価して、

1:25:16	いただければいいと思っっているんですけども、そそういうところがちょっと根底にあるってことだけちょっとお伝えをします。
1:25:26	以上です。
1:25:31	中部電力の森本です。ありがとうございました。非常にご意見のカラム気にされてるというのは、
1:25:40	よくわかりまして、ほぼ我々の他社の審査状況はお持ちしていますので、その数値の関係というのは承知しているつもりでございますで今回は、
1:25:50	そういった再び動いてないかと、本当にそこで動きが止まっているのかという観点で、
1:25:57	4.4 章の(3)ですかね再活動
1:26:03	してないんだというところもあわせて微細構造
1:26:06	見た上で御説明させていただいたというのが今回の
1:26:10	資料の前の回の会合から大きく追加しているデータになりますので、またその辺の介護で議論というか、御説明させていただきたいと思っってますので、よろしくお願ひします。
1:26:35	規制庁の谷です。あとはですね、私 4.4 章。
1:26:42	259 ページに、
1:26:47	計数ゴム一部の断層が個別には国都度していないと。
1:26:52	いったことを書いてるんですけど。
1:26:57	このですね、この①②の中に、
1:27:02	何ていうのこの分布つけ。
1:27:11	と。
1:27:13	すみません、258 ページでね。
1:27:20	H断層系の形態的特徴で。
1:27:23	H断層はほぼ同じ軽症な住宅差ですと、
1:27:28	いうことをここ書いてるんですけど、これはここには入らないんですけど、ここに 159 ページには、
1:27:34	どっかで埋めるんですかね。
1:27:45	この中部電力モリモトです。タニさん御指摘ご最もございまして我々文献から何も形成後の活動の個別の活動費対文献だけで否定してるわけじゃなくて、この形態的特徴も踏まえて、物を言って、
1:28:01	出ますで 158 ページはそういうこと言ってるんですけどもそれがちょっとすいません、259 ページまで。
1:28:07	反映し切れて



1:28:10	ナイトウがそれが見えなくなってしまうのでそこは修正させていただきます。
1:28:17	規制庁タニです。やっぱりこれは使ってて今ここ抜けているってことなんです、これやっぱりまとめのところで書かれてるんで大事にされた大事だと思っっているようなことであれば、ちょっと入れていただきたいなと思います。
1:28:39	ありがとうございました。
1:29:06	。
1:29:06	規制庁サグチですと時間がもったいないので、私のほうから幾つか確認と、もうこれはぜひですね、やっぱり資料構成も、資料構成とかし資料ですね。
1:29:19	我々のやっぱり理解が進むようにしていただきたいということもあって、幾つかちょっと
1:29:27	確認も含めたコメントさせていただきますけれども、
1:29:31	今回一番重要となるのは、前回の会合でコメントをした。
1:29:37	観察の事実から、何が。
1:29:41	言えて、
1:29:44	新東、きちんとどの断層であっても、1E系の活動性を評価していいんだよということをしちんと行っていただくと。
1:29:56	いうところを我々求めていって、そうすると、
1:30:02	当然観察事実がどうなのかというところで、特にを 40 ページ以降で今回 4 章ですよね。
1:30:14	というのが非常に重要になって、
1:30:17	来るんですけれども、
1:30:20	それで、
1:30:22	島前まとめのところは幾つかあって、
1:30:29	今回データ拡充もしていただいたところはあるんですけども、以前からのところも含めてもう一度ですね。
1:30:39	じゃあ全部何が同じか。
1:30:43	という観点で見ていくと、まずちょっと
1:30:48	87 ページ。
1:30:50	分布形態のまとめですね。
1:30:53	いやすいません、あらかじめ言っておきますけど、何が言いたいかっていうと、
1:30:58	事実関係のみをまず書いていただきたい、そこに仮定とか想定というものを含んだものではなくて、事実関係というのを正しくまず書いていただきたいというのがまず趣旨なので、そこはちょっとお伝えしておきますけれども、
1:31:15	87 ページの

1:31:18	1、
1:31:19	Cですよな。
1:31:21	向斜軸部。
1:31:23	付近を中心に、
1:31:26	南に開いたゆるい。
1:31:28	情報ペース
1:31:31	これって本当に
1:31:34	今の
1:31:35	88 ページになり分布のところから、
1:31:40	要は観察事実から、本当にこれ言えます。
1:31:44	ちょっとそこを確認させてください。
1:31:51	もしあればもう、もうちょっと言うんですね、さっき言ったみたいに、これはすべてが同じようなものという、まず家庭があった上で書かれているんじゃないかと。
1:32:03	何故かっていうと 88 ページの
1:32:06	1QA18 なんて見ると、
1:32:09	これゆるい弧状を呈していないですよな。
1:32:14	同じように、H7 の中心部付近っていうのはほぼ直線で、これは西側の調査が充実されて、西側にもともと投資
1:32:26	申請時にはなかった。
1:32:29	7 とか 6 とか 5 っていう西側の部分の分布ですよな、これが追加されたことによって始めて
1:32:38	工場を提出ということがいえるようになってきたもので、
1:32:43	じゃそれが、
1:32:45	今、鋭意地形全部に対して本当にいえるか。
1:32:49	っていう観点で見ると、
1:32:51	じゃあそのH級、A18 あと、
1:32:56	右側ですよな。
1:32:58	海域の部分。
1:33:01	これ少なくとも一部しか結局文化示されていないくて、
1:33:06	これだけをもって本当に全部が工場定数いえるかどうか。
1:33:13	っていうところなんですけど。
1:33:15	いろいろ仮定とかそういうのも入って考え多分御社の考え方としてはみんな一緒にこのゆるい工場を呈するものだというのを
1:33:26	言っただけでいると思うんですけど、ちょっと繰り返しになりますけど。

1:33:30	観察事実というものを
1:33:33	忠実に
1:33:35	仮定とか想定とかそういうものは入れなくて、
1:33:40	観察事実忠実にまず書いていただきたい。ちょっとその辺りまず等です。
1:33:49	中部電力のモリモトですけどもサービスさんの御指摘承知いたしましたを観察事実をというのはイメージとしては、我々もともと、
1:33:59	H断層系はこうですっていうその経営としてありきで少し文章書いているところもあってですね、1本1本がどうなったらH1はこうで1にはどれという記載は資料上、なっていない部分が、
1:34:14	残ってたりしますので、そういった観点でちょっと整理させていただいて、
1:34:21	そこに
1:34:23	例えば海域の破壊ますと、ボーリングデータちょっとしかないけれども、
1:34:28	改定つけなんか見るとこうですよとか家庭の状況そういったところが見えるようにして監査事実の積み上げという形で
1:34:37	それを作らせていただきます。
1:34:41	はい。それはこのページだけじゃなくて、当然そのあとの各種のまとめのところも同じような状況なので、そういうことはまず、
1:34:51	観察事実というものに対して忠実に書いていただきたいというのと、逆に、
1:34:58	本当はここに必要なんだけど、ないものとかってないですか。
1:35:04	87ページとか、
1:35:08	というのが、もう1点というのは、先ほどのその活動時期が、
1:35:14	どうかこうとか、同じような活動を機構であるっていうのを説明するために、
1:35:21	最終的に多分279ページぐらいが最終的なこの4、4章のまとめになると思うんですけど。
1:35:28	ここの
1:35:29	書かれていると考えたロジックというか、その中で本当にこういった各章のまとめで、
1:35:39	食べてない部分って多分あると思うんですけど、今の所御社は、
1:35:45	内でよろしいんです。
1:35:47	多分これ、
1:35:50	分布、例えばですね、分布形態のところで言うと、当然ながらこれ東西走向の南傾斜、南落ちの正断層、これはまあ当然そうですね。ほぼ同じ傾斜はほぼ同じ落差を持って、
1:36:05	逆に言うとかこれって結構重要で、その他にも、
1:36:10	ないですかね。

1:36:14	やって私が言うのも変なんですけど。
1:36:19	分布のとか携帯とか、
1:36:22	とかそそういうところだけじゃなくてですね。
1:36:27	当然そのあと性状の部分についてもそうなんですけど。
1:36:32	そこをですね、もう一度確認をしていただきたい。
1:36:38	例えば、
1:36:41	関係あるかないか別として、
1:36:46	この際流物質の幅とかってあまり御社は換気関係ないというのか、重要視されてないです。ちょっとそこを教えてください。
1:37:14	中部電力イマイでございます。債務者の幅につきましてはオセロにあの露頭スケッチとかでですねその幅波というのは書いてございますけれども、まとめの表にはたしかになりというのは事実でございます。利益なぜ変えていないかというのは結局
1:37:31	採用しの幅自身がですね活動性これ動画繰り返し活動したかという要するに活用すればするほど幅が広くなるというそういう活断層の知見とは違いました、我々の公開の調査でもですね、薄片の観察結果よく見ますとやっぱりその
1:37:47	繰り返し活動したようなもの、そういう構造がないということもありまして、事故等でも一関に関しましては、作業物質の幅がそのままその活動性に関わるようなパラメータから見て足りないというふうに判断しまして今回そういった経営インダ表には採用しの幅と。
1:38:04	いうパラメータを入れていないというのがエイジスでございます。以上です。
1:38:09	はいサグチです。ありがとうございます。そういうお考えであるんだつたらまあそう考え方はわかりました。で生んなぜそういうことを今言ったかっていうと、当然分布性状のところでは断層の規模っていう観点が多分あるんですよ。
1:38:24	そのうちの1個として落差は入っているんだけれども、普通は。
1:38:30	断層の長さたり、
1:38:32	断層の幅だったりとかそういうのがあって、
1:38:36	そういう規模の観点から入ってないっていうのは、当然これは調査の観点もあって、時8とか地域も含めてそれを前全部押さえられてるわけじゃないのでそういうのは入れられないな当然なんですけど。
1:38:51	その中で、本当に足りているかどうかという観点で見たときに普通の断層を弁見してみると断層幅に対応するようなもの。
1:39:02	ていうのが本当に必要なかどうかという観点で今ちょっと確認をさせていただきました。
1:39:07	今のお答えですと

1:39:12	預んそれこそこれは考えだけ述べます少なくとも超え 1 断層系っていうのは、 アクモス裁量物の幅イコールその断層規模みたいなのか繰り返しのの度合い を示したものではないっていうそういうお考え。
1:39:27	ということはちょっと一応お聞きしましたので、
1:39:31	あと幾つかあって、分布性状のまとめのところで、
1:39:39	何か構成物質が
1:39:41	同じというような書き方があったと思うんですね、鉱物組成。
1:39:46	かな。
1:39:47	で、その鉱物組成が同じというのはちょっとごめんなさい、どこの部分を指して いるのかを教えていただけますでしょうか。
1:40:03	モリモトですねと鉱物組成について述べているのは、資料で言いますと 180 ペ ージ 181 ページ。
1:40:14	もう部分になります。X、
1:40:18	1000 回折分析結果を載せていて、
1:40:23	ここで
1:40:26	歳入物質、それからその周りの母岩の
1:40:31	鉱物組成を見ているというものです。主要な
1:40:36	鉱物というのが、いずれの断層でも一致していて、防犯の探そうとも変わらない ということを確認しています。
1:40:48	はいありがとうございます。どこに対応しているかはわかりましたので、
1:40:52	ちょっと細かいことは別としてこの 180 ページに書かれていることを少し確認を させていただきたいんですけど。
1:41:01	その前のちょっとEPMAAとの関係もあってEPMAだと。
1:41:09	179 ページ、その前段の検層分布に間対する考察のところいろいろあるんで すけど。
1:41:19	右上かな長石類以外の箇所でカリウム成分を多く含みアルミも成分にもどうも 箇所はイライトやスメクタイトを示していると考えられる。
1:41:32	あるんですけど、一方で、その 180 ページ見
1:41:36	181 ページXRDだと。
1:41:39	これはもうスメクタイト一つに統一されていて、
1:41:43	これは分析の手法が違って、
1:41:48	EPMA妥当なんかイライトみたいなものもありそうなんだけれども、
1:41:53	XRDだと、ちょっとそれが出ないのか。
1:41:57	それとも出てるんだけどちょっと微量、
1:42:01	過ぎてここに載せるほどでもなくて、

1:42:05	またはそんないわれとスメクタイトと分離自体がまだできてないのか、ちょっとそこはどうなのかまず教えてください。
1:42:17	中部電力大南に先ほど今サグチさんおっしゃられたようにまずその分析手法が違うというところでXRDというものはもうその鉱物ですね。
1:42:28	鉱物そんなをそのものを贈呈しているということでEPMAに関しては幻想ですね。
1:42:37	原則はどういった割合で含まれているかというものをしている、基本的には幻想っていうものが例えばコアのシリカとかそういったもので隻を主にはを構成するものなんですけどもそれでも設計が
1:42:55	石油であればそのシリカ 6 割とかそういったものを踏まえてこない設計になってこないんですけれどもそういったの元素そのものを見ているとのXRDの方はその鉱物を見ているというところでも見ているものが違うということになってきますので、
1:43:11	どちらかといえば最初におっしゃられたように、分析っていうものが違うというふうに理解いただければと思います。
1:43:23	はい。
1:43:25	御説明についてわかりましたけど、そうすると 179 ページっていうのは、もうこれはイトウイライトとかスメクタイトはまず、
1:43:36	るいる言っていますかね、イライトとかスメクタイトでしょうっていうぐらいのものであって、確実にイライトとか進めたいが、
1:43:44	あるっていうようなことまでは言えないっていう、まず、まず理解でよろしいですか。どっちかどっちかわからないって言ったら変ですけど。
1:43:53	はい。
1:43:54	例えば大南です。基本的にはそういう形になります。
1:43:57	含有する量ですね。何%ぐらい含まれているかというところで見っていくのでいろいろとスメクタイトというみたいな組成になっておりますので、依頼とか進めたりとかどちらかかなっていう形になると思うんで、XRD見るとピークの立つか高めると思うのはおそらくスメクタイトだろうと。
1:44:17	そういった評価をしているということでございます。
1:44:21	はい、サグチです。ありがとうございました。ちょっと細かいことですね 180 ページ少しさらに確認をして、
1:44:29	行きたいんですけど、
1:44:33	2 ポツ目。
1:44:36	いずれの断層の裁量物質も石英斜長石を主体とし、ものに緑泥石スメクタイト等からなるところなんですけど、確かに石英斜長石を主体に実施する。

1:44:50	ってというのは、
1:44:50	表を見て、
1:44:53	すべてですね、一覧のすべてを見てわかるんですけど。
1:44:58	雲母類、緑泥石
1:45:03	もう年度こう
1:45:05	ですよ。スメクタイトと。
1:45:08	これって、
1:45:09	あたりなかったり、
1:45:13	少量だったら微量だったりっていうとこですよ。
1:45:19	確実に何かあると思うん
1:45:22	だからその辺りとどうなのかということで、結局それが重要なのか、それともさらに下に書いてますね、方解石が云々とかしれないとか云々とか、そっちが 14 なのか。
1:45:37	要は多分構成物質でも、これが全部にあることが重要。
1:45:44	むしろ、これが全部にないことが重要とかですね。
1:45:47	そういうたなんていうんですかね、分析みたいなので。
1:45:52	あくまでもそれは活動時期が同じだと。
1:45:57	いうことを示すという観点からですね。
1:46:01	そんな、何かそういうような
1:46:03	例えば高温のものがあるとかないとか、
1:46:08	一部なんか一番最初の市指令ライトとかを抵抗に関しては云々って書いてあってますけど。
1:46:15	そういうところまでの分析っていうか考察ってされているんでしょうか。
1:46:25	このXRDに関して今ああですと僕案の構成物とも同じもの含まれているということでおっしゃる通りその熱水であるとかそういう変質を受けていたという。
1:46:37	ようなものがないということも一つの観点ですし、また何か大きく違う。
1:46:44	活動量大きくて地下部組成が入ってくるようなものでもないということも含めて
1:46:51	観点としては重要なところになっていきますのでちょっとそういったものがわかるような事態には少しちょっと考えてみたいと思います。
1:47:01	はいすいませんモリモトですけれども南申しました通り、そういった観定の整理はさせていただきますが、今回XRDやってる目的としてはですね薄片
1:47:13	このされる物質の部分を見ると、

1:47:18	母岩の砂と混合した様相が確認できていると。それに対して、じゃあ、鉱物組成という観点、それから、この前のXRDもそうですけれども、別の鉱物だとか幻想という観点で見るとどうなのか。
1:47:34	いうので分析したのが、このシステムの位置付けになります。
1:47:39	その辺りは前段も調べ堰配慮導入の部分で 174 ページで説明しておりますのでまた後で御確認いただければと思いますけれども、そういった観点で見ると、
1:47:52	180 ページ 181 ページに戻りますけれども、
1:47:56	その母岩で出ている母岩というところで生じる等白抜きの部分ですけれども、
1:48:04	鉱物と。
1:48:06	サービスイじる鉱物が同じだということがすべての断層で共通しているというところも一つの重要なビジネスというか、こっから先示していく。
1:48:18	ことの連系なってますので、
1:48:21	毎月としては、今回の資料としてはそういう整理をしております。
1:48:25	その母岩とどろぼうがまざったというところを使って未固結時にできたんだというところを説明してますので、
1:48:34	今白井はそうなので、またSEだとか、そういった別の観点も含めても、プラスアルファになるようなことがあるかと思しますので、整理はさせていただきます。
1:48:46	はい、すいません、あとさらに細かいことなんですけど、その一番最後の先ほど言った。
1:48:53	市税ライトとかを抵抗の話ですね。
1:48:56	これ相良層が海底の堆積物であり、Sイトウの影響を受けておらず、堆積環境では生成されない。
1:49:05	というお話というのが考察なんですけど。
1:49:10	これってイトウされるのはあくまでもさっきタニの方からもちょっとありますけど。
1:49:18	あくまでも相良層が
1:49:21	海底にあったような
1:49:23	古いときに、
1:49:25	できたみたいな、そういうイメージなんでしょうか。
1:49:30	それともう、そういうことでなくて、単純に熱水等の影響を受けていないということだけなのか。
1:49:39	いや何故かっていうと、この地域っていうのはそもそもがこの熱水活動自体がそんな盛んな



1:49:45	地域ではないと思うんですけど。
1:49:49	なので別にどこであってもこの熱水当面影響ってあんまり受けないんじゃないのかなと思うんですけどそのあたりでちょっとどのように考えているのか教えていただいて欲しいですかね。
1:50:03	中部大南です。後者のほうですね、基本的には何かこれ良いとしてるわけではなく、単純に体制環境として、どうだったかということ言ってるだけということでございます。
1:50:17	はい、わかりました。さらにますと 182 ページ目 1 のこの粒度分析なんですけど、これ結局、最終的な結論とかまとめとしては、
1:50:35	顕著な細粒化がないということを示している。
1:50:39	されてるんですけど。
1:50:41	それ、それが結局どういうことなのか。
1:50:46	この複数回動いていないということがおっしゃりたいのか、別に回数は別として、それがすべての断層で同じようなので同じような活動様式を示しているんですよということ言いたいのか、ちょっとそこを教えてくださいいいですか。
1:51:09	モリモトですけれども 182 ページまずいということとしては二つありまして顕著な細粒化がないということが箱書きの最後のとこに書いてますけども、それとプラスアルファですね。
1:51:22	さっきも御説明しました泥と砂がまざったまま母岩の道路では差がまざった認めだったというものに対してで粒径の観点からもそういったことが言えているところですが普通にに入れて分布と来ているということも、ここで、
1:51:38	確認した内容であるというところが一つと。
1:51:41	顕著な細粒化がないということをもって何言ってるのかというと、
1:51:51	後段でご説明しますよ岩盤中でやっぱり固まった
1:51:57	岩石の中の断層だとブリード破壊になって顕著な細粒化が見られると。
1:52:05	いう知見もございますのでそれに対して、そういったものは、
1:52:09	現象としてないよと。
1:52:11	いうことを確認してますので活動様式として活動のタイミングとしてということ
1:52:18	一体資料です。
1:52:24	はい、えっと、
1:52:25	なので、
1:52:27	一応そこも御社としては
1:52:31	活動のタイミングっていうお話が今出ました。
1:52:35	これもある程度根拠になると考えて、
1:52:39	いるんじゃないかなと。

1:52:41	思ったんですが、特にそこについては、
1:52:46	触れられないというのがさらっといくっていうそういう、
1:52:50	今資料になってますけど。
1:52:52	それはあくまでもこれがすべてに対して、
1:52:56	その解析とか分析をやっているわけではないので、そこまで言えないという、 そういう理解でよろしいですか。
1:53:05	モリモトです。この試料分析全体で揺れることなんですけれども、
1:53:10	それを資料の説明の中でも少し触れましたけれども、あくまで中心としては露 頭だったり薄片、そういったものを見た目の観察記録から物を言っていると。そ れが類似していることを確認すべての断層で同じ認められることを確認。
1:53:28	しています。それに対して定量的な側面で物を言うかどうかということがいえるのか というのを考察したのはこの試料分析の位置付け、
1:53:37	ですので、共通の事項としてはまず薄片では裁量ベースの部分が、
1:53:43	同じ様相をそうそうであることを確認しているというところでまず一つ軸が通っ て、すべてNASAで事故が通っていて、それに対して定量的な考察を行うとこ ういう粒度分布であったよというところの代表的な断層で確認しているという位 置付けで、
1:54:02	ございます。まとめのほうもそういう
1:54:05	記載にして、
1:54:08	いるとは思いますが、あと、
1:54:13	ここで 112 ページでいえることが活動のタイミングだということについてはです ね、ここはあくまで
1:54:22	調査結果を淡々とこのビルにとどめておまして、後段の部分。
1:54:28	4.4 章の
1:54:30	例えば 263 ページ。
1:54:34	あたりですね、こういった調査結果に対し、
1:54:38	9 月にページ言ってるような
1:54:41	性状調査に対して、じゃあ、
1:54:44	活断層岩盤中の断層固まった地層の断層だとかうだと。
1:54:51	これに比べてどうだという話をしているという、ちょっと構成上そういうつくり になっております。
1:54:57	ビジネスとしてないわけじゃない。
1:55:00	ということです。はい。サービスいずれにしてもちょっと先ほども繰り返しになりま すけど、各所のまとめでまず

1:55:09	観察事実というものをまず中絶に書いていただきたいということと、もし全部が同じような思いであれば話は別ですけれどもそうではなくて、特にこの部分が重要なんだと、御社が火災考えられる部分っていうのを、
1:55:26	特に順番その軽重をつけて巻か書くとか何か順番ごとに
1:55:34	重要な循環順番から変えていくとか、特にそこまでこれ必要ないよねみたいなところがあれば、そこは、
1:55:43	むしろこうのぞいたりですねしっかりこの部分では、これが特に重要なんだということを各章のまとめできちんと書いていただいて、今みたいな形で言い方はあまりよくないかもしれないですけど、とにかくすべてに対してこうだこうだこうだこうだっていうのを淡々と、
1:56:01	書かれると、むしろ
1:56:03	これって、
1:56:04	どれが重要なのか、本当についていう話になって最終的の結局、
1:56:11	全体まとめとしてもやっぱり薄れちゃうので、そこはきちんとですね、軽重をつけた上でしっかり整理をしていただいて、この拡張のまとめとそれから最終的なまとめですね。
1:56:24	っていうところはまとめていただきたいと思いますのでそこはよろしく願います。
1:56:31	モリモトです。ありがとうございます。ご指摘の通り対応させていただきます。効率的に審査いただくためにもどこが我々としてポイントとってるんだというところをもう少し、
1:56:43	見えるような工夫をして
1:56:47	資料にさせていただきます。
1:57:07	規制庁のカイダです。
1:57:10	先ほど来ちよつと議論されているというか説明されていてできた後にどれも同時に動いてどれも同時にできてそれ以降
1:57:23	動きがないっていう説明が基本線だと思うんですけどもちよつとそこで、
1:57:29	比較されている資料等々で確認したいところがありまして、
1:57:35	262 ページの
1:57:39	ところで、
1:57:40	そういった今ほど申し上げたことを裏付ける一つの資料として
1:57:47	新しい時代に動いた活断層との違いを整理していると。
1:57:52	というようなことかなと思うんですけど、ここにあるのは、
1:57:56	だから、1 いわゆる子すごい立派な活断層ばかりで、
1:58:00	で後の資料の例えば 200、

1:58:04	73 ページか後に出てくる。
1:58:08	のを見ると、この
1:58:10	NHKっていうのは、地すべり性みたいなお話のものであるという話も出てきて るんですけども、
1:58:17	結局懇 262 ページにあるような
1:58:21	いわゆるし、震源断層みたいなものじゃなくても、
1:58:26	地すべりとか、
1:58:28	副次的な断層であっても、
1:58:31	これは駄目だっていうことになりますので、
1:58:34	向こう行った立派な断層だけじゃなくてですね、
1:58:38	地すべりだっていうんだったら地すべりとか、
1:58:41	もうその他のもちょっと副断層みたいなものとの特徴も
1:58:45	整理して、この比較していただきたいというふうに
1:58:49	思いますけれどもその点はよろしいでしょうか。
1:58:56	中部電力の森本でございます。ちょっと来誤解がないようにということで
1:59:03	お伝えしたいんですけども、262 ページ、それから、
1:59:08	200、
1:59:11	67 ページをどういった観点で
1:59:15	幾つか断層の分岐の内容載せておりますがどういった観点で整理したのか と。
1:59:22	いうところを御説明させていただきますがまず 262 ページですが、最近動いた 断層だとか震源断層だということではなくて、まずかたい岩盤固まった岩盤 の中で動いた。
1:59:39	断層にはどういった特徴が見られるんだという整理を行っております。間かして 並んでいるのがちょっと大きい断層にはなってますけれども、
1:59:49	まず教科書で可能になった。
1:59:53	1198 中でいうと一般的にはこういうことを言われているという整理をした上で 固めた岩盤内の断層こういった性状を持つんだという整理をした上でじゃあ実 際の個別の断層見てやったらどうなんだやっぱりそうだよね。
2:00:09	いう整理をしています。
2:00:11	で、
2:00:13	次に 267 ページ。
2:00:15	ですけども、これはH断層系、ごめんなさい。その前段としてH断層系はそう いった固まった岩盤内の断層とは性状としては違うよねという整理をした上 で、

2:00:28	じゃあ、それって違うって言った固まった岩盤内の断層とは違うという整理をしたのなら、じゃあ、
2:00:36	債権によく似た断層ってどういう地層の中で動いてるのっていうのを整理したのは 267 ページです。少し地すべりだとか副断層といった、ちょっとその成因的な話。
2:00:48	先ほどカイダさんおっしゃっていましたが、実際成因で分類したわけではなくてですね。
2:00:54	この地層がかたいかやわらかいかという観点で分類をしております 262 ページは固いもの、
2:01:02	267 ページは、H断層系とよく似た性状も土層調べたらやわらかかったということを説明した資料です。
2:01:13	その椅子キーワードどうでしょうか。
2:01:18	はい。今御説明されたように硬い断層と 262 ページっていうのは、
2:01:27	岩盤において、
2:01:29	活動したとみられる性状のものを示していて、
2:01:35	でもそれとは違い、かたい岩盤のものとは違いますんでやわらかい。
2:01:40	岩盤に動いたもの。
2:01:43	の性状はこうですという対比として今使っているというお話でそこは確認はしているんですけども、
2:01:55	この
2:01:56	やわらかいですっていうものの特徴というのはだからこの 207、67 ページ等で、
2:02:02	文献でこうこう言ってますという
2:02:05	ところを引っ張ってきてるという少それだけっていうことですかね。
2:02:13	それ以外に何かちょっと実際に確認した結果みたいなっていうのは特にこの資料にはないということよろしいですか。
2:02:24	モリモトですけどもおっしゃっているのは実際のそのH断層以外の例えば 4 紀層中の断層調べたかどうかということをおっしゃってますでしょうか。
2:02:36	はい、そうです。
2:02:40	一つ率においては、
2:02:44	文献のイですとまた地点の岩内層調べたりとかしておりません。
2:02:51	規制庁のカイダです。
2:02:53	実際にこう調べるかどうかは別として今ここに文章で書いてるだけですねかなにかこうわかりにくいのでまあ表にするなり、そういった文献で示されているも

	のがあれば、そういったものも併せて掲載していただいたほうがわかりやすいので。
2:03:11	そこは資料の記事充実化をお願いできますか。
2:03:17	モリモトです。267 ページですけども表の欄外に書いてありますが、ここで引用している文献というのは、
2:03:27	過去の資料で
2:03:30	こういったことを説明してますという写真だとかスケッチだとか、そういったものを
2:03:36	もう提出させていただいておりますして今回初出しのものについては、
2:03:41	面する通るそれから補正 2012、補足説明資料のほうにですね、外洋載せておりますので、
2:03:49	通常またご覧いただければと思いますが、
2:03:54	はい、わかりましたじゃ。
2:03:56	ちょっとそこは確認してみます。
2:04:04	ほかにわかりましたけれどもちょっと一番これ結構大きな根拠として使用されるのであればここにもですね全部とは言わないまでも一番代表的なというか、重立ったものはわかるような形で、
2:04:21	掲載をしていただきたいんですけども、
2:04:24	そこはよろしいですか。
2:04:29	詰め込むに基づいて 5 隻承知いたしました。今、
2:04:34	箇条書きで書いてあるの表形式、例えば 162 ページみたいな形でということかと理解しましたので、対応させていただきます。
2:04:44	はい、私たちますか。
2:04:46	サグチすみませんちょっとお願いみたいなんですけど、できたらですね、図表図とか写真とかの文献ないにもあればそれでちょっと 1 とこんなに違うんですよとかこんな、この通り同じなんですよっていうのが、
2:05:03	わかるような会対比をさせた上で示していただけると、非常に我々としても理解すると思うんですけど。
2:05:13	はい、承知いたしましたの対応させていただきます。
2:05:17	規制庁のカイダあとすいません、あともう 2 点だけ。
2:05:22	と。
2:05:22	277 ページで、これもまた複数回活動した断層、結局は、
2:05:31	しっかりした断層との特徴の違いということで比較を示されていると思うんですけども、
2:05:40	これ確認しましたらこれH系ってやっぱり、

2:05:44	二、三十mの変位量があって、
2:05:50	この 26717 ページだと。
2:05:53	複数回活動した断層に見られる性状がないと。
2:05:57	その上に書いてるな苦痛の層からなる層状構造がないっていうのところ、
2:06:03	がそうなんかと思うんですけども、
2:06:06	そんなに 30 万m一遍に動いたっていうそういった御説明今されてるんですけど。
2:06:14	この 1 ページ、このページの一番上のIMほか何かと。
2:06:19	10 万 10 回の活動応分大して層状構造があるっていうふうに言ってまして、
2:06:25	二、三十mだったら
2:06:27	1 回何m動いたかわかんないんですけど、何目に 3m動いたとしても 10 回とか、
2:06:34	ある時期にまとまった時期に 10 回ぐらい動いてたりすれば、
2:06:40	とりあえずその 1 回で二、三十m動いたので、今そういう複数回動いた特徴が見られないっていう、そういった御説明なってるのかそれとも何回か動いてるけど、そこまでのものは見えないっていう御説明なのかちょっと資料から、
2:06:56	わかりづらいんですけども、
2:06:58	そこは今どうお考えになってるんでしょうか。
2:07:04	モリモトです。
2:07:05	おそらくですね 1 回をどうやって定義するかによってくるかとは思いますが、
2:07:14	一番総計強いのか考えると地すべりかなと我々考えておりますが、やっぱり地すべりっていうのはずるずるずるずるある程度の時間はかかって
2:07:28	動くものなのかなというふうには考えておりますが、
2:07:31	こういった複数回活動した断層なんかで見られているように、ものすごい期間をあけてですね一旦動いて完全に止まったものが、
2:07:41	もう一度置くとかそういった現象とは違うのかなという整理。
2:07:49	整理かなと思っておりますので 1 回 1 回で 20 名二、三十メートル動いたとは考えておりますが、その 1 階が
2:08:00	地震が起こる一貫臨んそういうわけではなくて、まずれそれぞれた昭和時間かかって動いているのかなという考えております。
2:08:09	はい、規制庁の川です。
2:08:11	その辺がですね資料上わからないっていうかどっかに書いてあるんかもしれないんですけども、今、今ほど、
2:08:19	御指摘させていただいたページの辺りから見ると、

2:08:23	何かもう1回ものみたいな感じにも見えたりするので、
2:08:28	その辺の考えは明確化しておいていただきたいと。
2:08:33	思い、今おっしゃったこともちゃんと書いていただいて、
2:08:38	いいかな、いただかないとちょっと誤解を招くのでお願いしたいです。
2:08:43	この点は、それとあとすいません1点だけですな286ページ。
2:08:50	とかで正断層群の形成に関してこういったものが考えられますよというようなことで、こっから先ほども申し上げたように地すべりっていうのが、
2:09:00	出てきているかなと思います。
2:09:03	次のページを見ると、
2:09:07	次の次のページでここは正断層が形成されるような応力場なんではないっていうのは、
2:09:14	書いてあって地すべりっていうところに結びついているのかと思うんですが、
2:09:19	その前のページの287ページの
2:09:24	⑰番。
2:09:26	渥美半島沖の断層ってこれまさにほぼ同じような近いところにある、
2:09:34	これ何か1件に似たように並行する正断層群、
2:09:39	ではなかったかなと思ったんですけども、これは違ってましたけど、
2:09:44	それとの違いっていうか、これが
2:09:48	⑰番みたいなのが、
2:09:50	この286ページエントリーされてないのはなぜかとか、
2:09:56	あと、
2:09:58	結局そういったものではないかどうかっていうところも、結局最終的には、
2:10:03	大事になってくると思うんですけどもそこを今どういうふうに整理されているんでしょうか。
2:10:11	はい、中部電力のヒサマツです。こちら
2:10:16	周辺の審査で大分時間かけてやってもらったところですけど、浜松沖の正断層群ということで、
2:10:24	反射断面とか海上音波探査記録見ても、かなり深いところまで
2:10:32	断層見えてるような規模が全く違うようなものでして、1断層系とはまた規模が異なるものだと考えています。
2:10:40	ここ厚み局流動とかあとは
2:10:45	品質が当局とかも大分やりましたけど、その辺りで関連した引っ張りが起きて正断層群ができたっていうことで評価はさせてもらってます。



2:10:57	で、その北端あの日北東たんの審査については大分記録出しまして、これが敷地内のほうまでは延びていないってことは確認していただいて就任のほうで確認していただいているところですよ。以上です。
2:11:14	はい、規制庁のカイダです。その点は承知してますけれども、そうであれば286 ページに、
2:11:22	なんかもっともっと大規模なものすごい
2:11:25	ものとかあと一見して違うと思われるような火山のなんかカルデラみたいなもの、
2:11:33	まで載してあるんでありますので、
2:11:38	国庫いったところにエントリーさしてや違いますっていう違うんだよ。違うなら違うってというのは、
2:11:45	説明等を
2:11:47	していただいたほうが
2:11:49	こっちも理解しやすいんですけども、そこは
2:11:55	同じく正断層のところの話として、これは、
2:11:59	入れて入れたほうがいいと思いますけれども、ここは入れることは、説明していただけるでしょうか。
2:12:12	今、
2:12:13	シュリンクイマイです。まずちょっと、
2:12:17	今の、今ほどの正断層がどちら書けと左上の
2:12:21	280、6 ページのテクトニックな要因による正断層群、ここに入るのかなと思ひまして、ITておりませんでしたけれども、ご指摘ありましたように左上の図的かねこれ規模が大陸地殻規模の前でございますので、今の遠州灘撓曲たい。
2:12:38	じゃあ、その次の期の正断層群ですかの断層のぐらいの規模のものにつきましてもですね、286 ページのほうに追加させていただきたいと思います。以上です。
2:12:52	はい、じゃあ、よろしくお願ひします。私からは以上です。
2:13:02	規制庁タニです。若干話が戻るかもしれないですけどいろいろ分析をされててさ、さっきサグチさんの方からもいろいろいろいろ確認してたんですけど、ちょっと僕ですね
2:13:14	H断層系でいろいろ調査されていることがある断層ではされていある断層ではされていないというようなことが幾つかあって、これ、どういう考えで
2:13:26	調査してるところとしてないところがあるのかっていうのを確認したくって、ちょっと何点か確認させてください。
2:13:35	EPMA分析って、

2:13:38	してるところとしていないところがあるんですけど、例えば薄片とってるけどしてないっていうのが一々だとか、
2:13:47	H6 だとか、これはあれなんですかねなんか調査時期の違いとかそういうことでしているのとしていないところがあるってことなんですか。
2:13:58	ちょっと理由を簡潔に教えてください。
2:14:12	調査時期とかそういった形でやってるものやってないものは、
2:14:16	あるというのが実情でございます。
2:14:21	規制庁単月でEPMA分析をやってるやってないわ。まあちょっと比較的新しい用の新しく調査がボーリングだとかなんだとかあるようなところではやっているという理解でいいですか。
2:14:38	中部電力モリモトです。おっしゃる通りですが今のデータだけでも十分に説明できるということは我々としては考えております。
2:14:48	私ちょっと、はい。事実関係だけちょっと確認したくって、続いて、砂粒子の粒度分布っていうのも、
2:14:58	していないところとしているところっていうのは、もちろん何か
2:15:03	露頭がないようなところではできないのかもしれないんですけど。
2:15:08	いよいよボーリング坑でもできるのですねこれやろうと思ったら、それはしていないところの何か理由みたいなのがあったら教えてくださいたらと。
2:15:38	すみません、NDSの富澤おっしゃってるのは 183 ページ。
2:15:42	とか、
2:15:45	あ、ごめんなさい。そりゃですね、174 ページを見れば、残りやってるかまとまっているので。
2:15:55	この中の砂粒子の分析、
2:15:59	のことですよ。
2:16:02	ね。はい。
2:16:04	そうです。
2:16:11	いや、私はこれ何で全部やってないんだって言うつもりはなくてそのできないという、なんか
2:16:19	何か条件がもともとあってやってるのか、それともここここここを見とけば代表的なものが見つめるとかいう理由なのか、ちょっとな、なぜそのやるやらないっていう差があるのかっていうのちょっと事実確認をさせていただきなんです。
2:16:39	その次のモリモトです。この実情としてはですね調査のタイミング。
2:16:48	このやってるやってないと。
2:16:50	こういう観点でやってみたらどうかとやったタイミング、そうでないタイミングというのが実情でございますので、今あるデータだけで十分御説明ができるよねと

	いうところで、今の調査数量に留めているというのは全国的な実情でございます。
2:17:11	はい、おりました。あとは帯磁率とかコードっていうのを、これ現地タブの等価しないとできないやつなんですかねこれは露頭があるところは全部やってるんですか。
2:17:28	中部大南ですけど帯磁率硬度は一応露頭あるところすべてやっております。あと、
2:17:35	ここで粒度分析っていう項目に関しても結構な分量があるので露頭があると思うんでないとできない。逆にとまあ今これ以上ふやししようがないというそういった状況です。
2:17:49	タニです。ありがとうございます。じゃ露頭がない所あるかないかで結構その流動等を帯磁率っていうのは制約があると。
2:17:59	いうことですね。あとh8っていうのが、これボーリング、ここはもうないんですけど。
2:18:08	18って走向傾斜だとか、そのうねりがあるなしとかそういうのは整理されていないと思うんですけど。
2:18:16	これはボーリングもとらえてなかったんですけど。
2:18:21	授業モリモトです。ボーリングコアではとらえておらずに、その周りのボーリングの鍵層の落差からここにあることを想定した上で、反射法で南傾斜の断層を見ているというものでございます。
2:18:45	規制庁タニです。起こりもしております。
2:18:48	あとは、
2:18:51	これ海域とかではですね、なんか流動だとか、今聞いたら粒度分析っていうのはもう何かある程度量がないとデータ取れないんだっていう話をされてましたけど、
2:19:05	粒度分布Mなどもそうなんですかね。
2:19:08	石英粒子表面構造解析とかはどうなんです。これも、
2:19:16	例えば海域だったら、
2:19:18	そんなに
2:19:20	古いデータじゃないかなと思うんですけど。
2:19:22	これも露頭がないとちょっとできないような
2:19:28	位置付けなんですそれともう必要ないからやっていないっていうことなんですか。

2:19:34	中央南ですねと石英粒子に関しても、ちょっと断層細部物質から物をとってやるということになってくるので。それだけとれるかどうかというところなかなか露頭はないと厳しいかなという状況ではありますので、
2:19:50	また設計粒子に関しましても類似性という観点では見ているんですがそれを評価にどう使っているかっていう点もあって、その重要性としてはちょっと低いついていうところはあるので、ちょっと今後やってくるというのはあまり考えていないものにはなっております。
2:20:07	気づきを投入するありがとうございました事実確認できました。
2:20:13	あともう1ヶ月耐専すいません今ほど御説明したように174ページで書いている。
2:20:23	内容ですねこの断層を対象にやってますというところの学んでここだけ。
2:20:29	なのかというところについては少しもう少し今ほど御説明したような内容を
2:20:36	書き下してですね、資料としても、スライド1枚ぐらい追加させていただきませう。
2:20:43	規制庁タニです。ありがとうございます。そうですねなんかお考えがあつてこういうところを取られてるっていうのがあるのであれば、ぜひそれも踏まえてですね我々みたいと思つてます。
2:20:55	あとですねちょっとまたこれもさっきの質問に戻ってしまうんですけど、267ページで、
2:21:04	ちょっと先ほどから話を聞いてて、
2:21:07	類似した性状を持つ断層を文献で調べましたっていうことなんですけど、これやっぱり今議論になっている軟質な歳入物質っていうのが、この中ではあるのかないのかっていうのを確認したくて、
2:21:22	この二つ目のポツの本図ですカーボンで弁数ですかね。このクリア狂い進め当て馬書いてるとこれはあれなんですか中部電力としてはこのH断層系という軟質の差異理由物質に相当するようなものだと思つてるんですか。
2:21:45	中部電力の森本です。硬いか軟らかいかという記載はおそらくなかったんじゃないかなと思いますけれども、断層名に見られる。
2:21:57	黒色層といいますか。談下げない物質という観点で、
2:22:04	これするには同じものじゃないかなという整理を行っております。
2:22:09	はい、ありがとうございます。その次の法線ですか。これはこれにはあるんですか軟質な裁量物質っていうそうこのH断層系に認められるような特徴ですね。
2:22:27	あとモリモトです。こちらにはですね、何軟質その一を断層面内のものが流すかどうかというところの記載までは、
2:22:36	なかったかなと思います。同じ観点で断層面内の物質は、

2:22:43	火山それぞれの断層ガウジいう目で同じものだとTHAIさせております。
2:23:00	すいません、ちょっとよく説明置かなかったらもう1回お願いします。歳入物質みたいなものがここには、
2:23:08	あったと思ってるのか。
2:23:10	私もちょっと文献も確認しますけど。
2:23:15	中部臨空イマイでございます。ちょっと細かいなっちゃった補足資料のほうにもつけておりますけれども、これら文献はですね、5番がやらかい未固結から半の時代にできた。
2:23:30	断層だということで、白人等も調べましてですねやそのみ軟質堆積物の経理に個人できたというような文献でございます。
2:23:42	bできたのは、そもそも古い時代でございますので、今現在においてかたいかやわらかいかというところのところは、文献でも示されてはおりませんけれども、おそらくそのえっと、要するに母岩が軟質な時代にできた。
2:23:57	変形構造でいうことを薄片をつくると今回の我々のH断層系の剥離調べたような特徴がある。
2:24:05	というようなところを記載してございますので今回これらの文献を引用させていただいたというところでございます。以上です。はい、規制庁の谷です。
2:24:15	だからあれですよ。
2:24:18	流動的な変形構造を持ったりとかそういったところを類似してるようなところを見て、
2:24:25	あまり
2:24:28	H断層系にあるような
2:24:31	一部だけやわらかいこうものがあるかないかとかそういうこと別に整理しているわけじゃないってことですかね、ここで言いたいこと。
2:24:42	モリモトですけども、そうおっしゃる通りで、
2:24:49	やわらかい部分に着目度1文献で言って文献の中でやわらかいと言われてることに着目したというわけではなくて、その断層面に見られる物質という観点で整理して再異物と対比させてるという位置付けです。
2:25:10	はい規制庁谷です。ちょっと資料も確認していきたいと思いますが、ありがとうございました。
2:25:26	規制庁のマツスエです。
2:25:30	ちょっと基本的なH断層の特徴についてちょっと確認なんですけど、
2:25:36	どこかに164ページ。
2:25:41	に、各H断層のスケッチが示されていて、
2:25:47	その前にも各個別に写真等もあるんですけどもここで、

2:25:53	必ず 22、2 条の断層があってその間が非常にシエアされていると。
2:26:00	いう記載がすべてにわたってます。
2:26:03	なおかつ別のところの深部の断層でHじゃないのかっていう議論のときに、この幅が狭いから別だという記載もあります。
2:26:13	2 条の幅が
2:26:16	数十センチというのは、H断層の特徴大きな特徴だと私も今思えるんですけども、
2:26:24	例えば 12 ページ戻って者 261 ページの性状一覧表には、来災害臭いないんですよね。
2:26:35	先ほども 10 数mが 1 階に動いたかどうかずるずる動いたかっていう部分で、この 2 層の断層の間のシエアが断層このH断層の活動メカニズムの中でどういう気候でこういうものが、
2:26:53	形成されたのかっていう説明をしていただかないと。
2:26:58	ちょっとこのH断層系のメカニズム生成メカニズムというのがちょっと頭に私には入ってこないんですけどもその辺いかがでしょうか。
2:27:12	千船含まれてございます。1 断層系、
2:27:16	もう特徴として通常二乗と書いてございますが、実際等によっては一応なったり参照になったりということで、路頭に予定割と特徴が違うというのを待つ一つあるということでございます。こういった断層の特徴といたしまして、やっぱりその周辺母岩の引きずりとかです。
2:27:34	そういったものも含めると、おそらくそのやっぱり母岩が未から半固結の時代にできたものだというところを解釈しているというところがございます。
2:27:44	先ほども 6 さんだろうということで落差っていうのは書いてございまして幅がないというご指摘もございましたけれども、
2:27:55	さっきの再物質の幅という話もございましたけれども、その断層の幅自身が一関一も活動の
2:28:06	繰り返し繰り返し活動したかといったところとは基本的にはパラメーターとしては関係ないかなというふうに思っておりますので、これまで、表の中で
2:28:15	一関一幅幅という概念がそもそも債務者の幅も含めて書いてないっていうのが一つあるっていうことと、
2:28:24	いつの時期の幅という観点からいたしますとですね先ほどの土を見ていただくとわかるんですけども、典型的なタイプであれば、確か 2 条の断層面があつてっていうことなんですけれども、やはりそのことによってかなりその幅が
2:28:40	断層が三条に分かれたり仕様になったり、そのどこまではあまりとっていいのかというところは、断層露頭によってかなりそのバリエーションがあるものです

	から、なかなか一概に幅として7センチってところが、西縁しにくいということもあって、今回はそのような幅という整理は、
2:28:57	させていただいていないというところであります。
2:29:00	以上でございます。
2:29:06	当複数回の活動ではないという議論はこの1条ないし三条のそれぞれが1回しか動いてないよという議論という理解でいいですか。
2:29:19	中部臨空局面でございます。おそらくこれは血糖正断層のシステムとしてすべてあの同じような時期に一連のものとしてできたというふうに考えてございます。この2断層が埋めたい。分岐えっと分かれたり合流したいっていう、こういった特徴をもってですね。
2:29:34	おそらくその母岩紙から固結の時代にできたというところの一つの性状としての特徴なのかなというふうに考えているというところでございます。
2:29:53	あとあとそれはじゃあ、時ちやえをちょっとどっかにまとめていただければと思うんですが、
2:30:02	あともう一つ御所今日は4.5章については、
2:30:10	法務室でないというお話だったのか解釈だからやめるというような説明だったように思うんですが、
2:30:20	等でもすぐ説明の中でも地すべりだと考えているとかというような御説明があったんですけど4.5章は結論じゃないんですか。
2:30:32	中部電力の森本でございます。特に評価をやめるとか取り下げるとか、本質ではないと言うつもりはございませんで、
2:30:45	冒頭の説明の中で申し上げたのは、
2:30:48	西縁どうしても解釈になってしまうので、我々が
2:30:59	活動時期は同時だと。だから、
2:31:03	どれでも出してもできるんだという、
2:31:07	ところとまた切り離してですね。側面的に
2:31:11	地すべりだから、地すべりであれば、
2:31:15	当然、一度に複数の断層面できますので、
2:31:20	側面的に我々は別の観点から見た評価というのは正しかったというのを指示するという関係でございまして、この評価に全く使ってないとか、取り上げると、そういう話ではございません。
2:32:35	規制庁スガヤです。ちょっと我々も細かい連中と若干もうちょっと確認したいところはあるんですが、ちょっと時間も大分過ぎてしまっているんで、今回これで終了にしたいと思いますが、資料の修正。
2:32:51	あるってということですので、

2:32:55	修正していただいたらまたヒアリングの方申し込んでいただければと思いますので、よろしくお願いします。
2:33:03	中部電力アマンでございます。今日非常に重要なお確認をいただきました。特に大きなその部分だとか、個別個別の了承かつてまとめのところにしっかりと事実に基づいたことを記載するとか、
2:33:21	まとめるのがやっぱりポイント、重要なポイントとそうでないところをすっかり軽重をつけるというような重要なお指摘いただけましたので早急に仕上げてまた改めてヒアリング申し込みたいと思いますのでよろしくお願いいたします。
2:33:36	はい。規制庁スガヤですはいよろしくお願いします。
2:33:39	それでは浜岡の敷地の地質地質構造のヒアリングのほうを終了したいと思います。ありがとうございました。
2:33:47	ありがとうございました。
2:33:49	明日